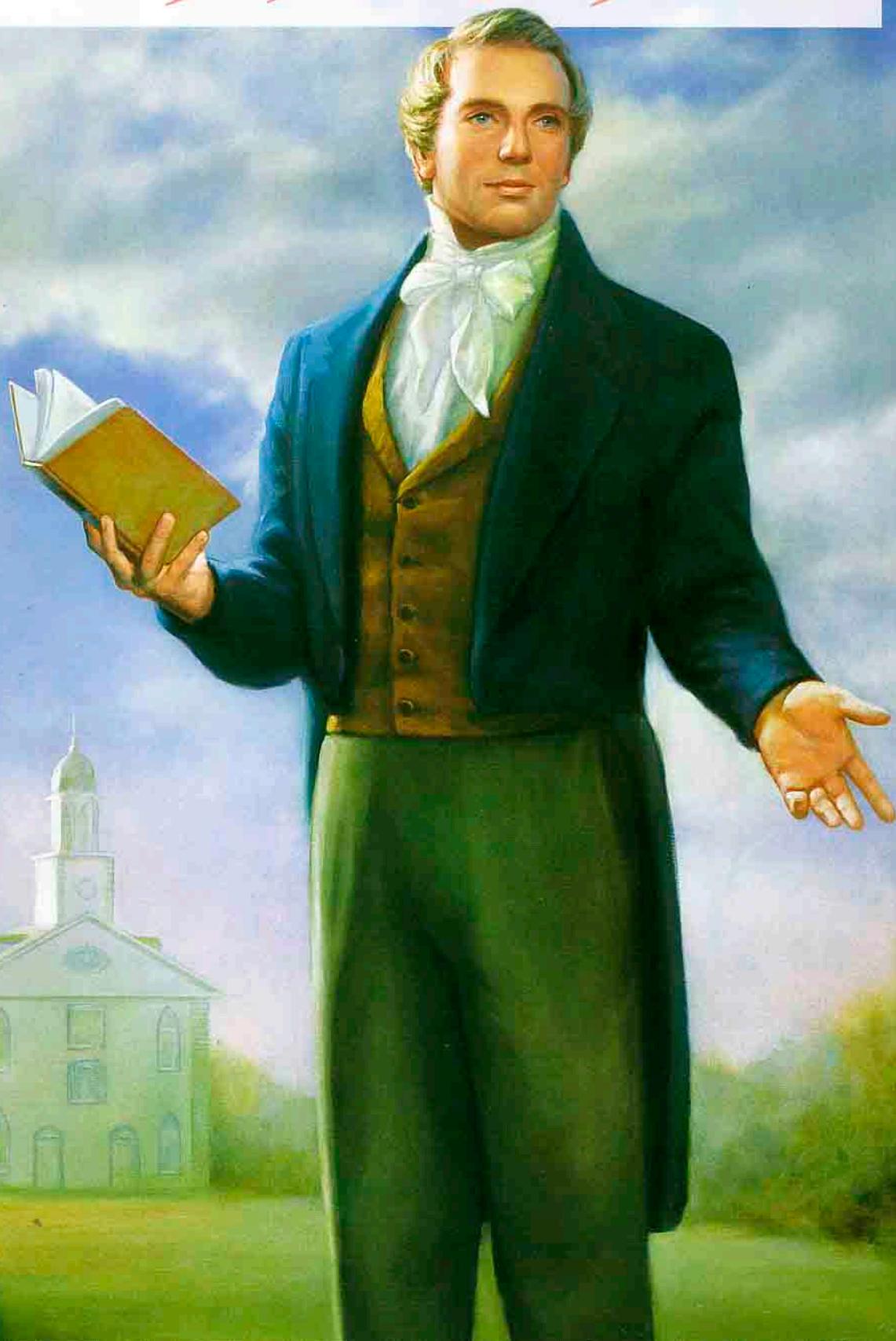


末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年2月号

# リアホナ



# リアホナ



## 表紙

表紙——「ジョセフ兄弟」  
デビッド・リンズレー画  
裏表紙——「聖なる祈りをささげるジョセフと  
オリバー」デル・パーソン画



## フレンド表紙

「バラグアイのジャグアロンに住むルス・カリナ・サンチェス」4ページ 参照 (写真/リチャード・ライマン、メアリー・アン・ウェッテン・ライマン)

14ページ参照



## 一般

- 2 大管長会メッセージ——道を備える  
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 14 イエス・キリストについての不可分の証の書 七十人 ジョン・M・マドセン
- 25 家庭訪問メッセージ——神の武具を身に着ける
- 28 生ける預言者の言葉
- 30 末日聖徒の声——主から望まれることを行う  
モルモン書に見いだされるまで クワメ・オパレ  
慈愛、そして一つ目巨人のケーキ ニッキー・O・ネルソン  
慰めを感じた理由 アラン・L・オルセン
- 38 最初に信じた忠実な人たち ドナルド・L・エンダース
- 48 『リアホナ』2001年2月号の活用法

## 青少年

- 8 イギリスの福音のルーツを探る ジャネット・トーマス
- 22 質疑応答——全人類を愛しておられる天父は、どうして罪のない人々に災いが降りかかるのを許されるのですか。
- 26 父に伝えた福音 シーラ・R・ウッドワード
- 36 教えに教え——前世
- 46 模範の力 カルロス・ペレス

## フレンド

- 2 ちいさなみんなのために——ジョセフ・スミスのさいしよのじげん  
ドロレス・デビクトリア
- 4 友だちになろう——バラグアイのジャグアロンに住むルス・カリナ・サンチェス  
メアリー・アン・ウェッテン・ライマン
- 7 人びととちがう点から、良いことが起こる時 ジャニス・ポーター・ヘイズ作
- 10 分かち合いの時間——天のお父さまのかわりに語るよげんしゃ  
ダイアン・S・ニコルス
- 12 新約聖書ものがたり——イエスと天のお父さまの家、ニコデモ
- 16 「これらのいましめを調べなさい」



46ページ参照



8ページ参照



38ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、キルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエンシュバンダー  
顧問：L・ライオネル・ケンドリック、菊地良彦、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐：R・バレル・ジョンソン  
編集副主幹：ロジャー・テリー  
編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド  
編集補助：スーザン・バレット  
出版補佐：コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カウサキ  
アートディレクター：スコット・パン・カンペン  
デザイナー主任：シェリー・クック  
デザイナー：トーマス・S・チャイルド  
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ケリー・プラット、ディーナ・L・ソレンソン、クラウドディア・E・ワーナー  
デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約販売スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス  
配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『リアホナ』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 理工印刷株式会社  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines February, 2001. Japanese. 21982 300

**For Readers in the United States and Canada:**  
February 2001 no.2. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



マノウイ兄弟の死

1999年8月号のR・バル・ジョンソンが書いたニューカレドニアの記事と、掲載された教会員の写真はとても興味深いものでした。わたしたちは伝道に出た最初の年、フィジーへ転任するまで、ニューカレドニアで働いていました。指導者であったタフーマヌー・マノウイ兄弟についての特集記事も掲載されていましたが、先日彼が他界したという悲しい知らせを受けました。マノウイ兄弟の家族、友人、ニューカレドニアで働いた宣教師たちに、哀悼の意を表します。

フィジー・スーバ伝道部、  
ジェラルド・ハンセン・フィンリンソン長老  
ジャネット・ハンセン・フィンリンソン姉妹

小さな求道者を育てる

「分かち合いの時間」

毎月届く『リアホナ』(スペイン語版)に心から感謝しています。とりわけ、分かち合いの時間の記事が助けとなっています。小さな求道者である子どもたちを教えるのに非常に役立っています。様々な話題や絵、ゲームなどを分かち合うと、子どもたちはとても興味を示します。

わたしは4年間、初等協会会長を務めていました。その間、『リアホナ』という特別で大切な機関誌を頼りにできたのは、素晴らしいことでした。『リアホナ』は、召しを果たしたり、クラスで教えたりするときなど、教会のあらゆる場で大切な役割を果たすことでしょう。

ブエルトリコ・ファハルド地方部、  
ファハルド支部  
セレネ・ピラロボス・デ・クイヨーネス



「長所のリスト」

『リアホナ』(ポルトガル語版)1999年3月号に掲載された「長所のリスト」を読み、とても感銘を受けました。自分の才能を尊重することの大切さが、とてもよく分かりました。わたしはこれまで、自分の才能を隠していました。それは恐れや、恥ずかしさによるものでした。

教会機関誌に、このように興味深く優れた記事を見つけるとは思いませんでした。感謝したいと思います。このメッセージは、わたしがほんとうに必要なものとしていたものでした。

この機関誌は、わたしを含め、青少年へのすばらしい祝福です。機関誌に記された福音のメッセージは、きっと将来自分の使命を果たす礎になることでしょう。

ブラジル・サルバドル北ステーク、  
サンカエタノワード  
アンダーソン・ビスポウドス・サントス

人々の経験から学ぶ

わたしは6年前、17歳のときに改宗しました。『リアホナ』(スペイン語版)を読むのがとても好きです。人々の経験から学ぶのも良い方法だからです。読む度に実感することですが、この機関誌はまさに、わたしたちが従うべき道を示すコンパスのような存在です。

ペルー・リマ・サンルイスステーク、  
ポリバーワード  
ロナルド・ルイス・ヒノストロザ・フォルトウナー



## 道を備える

第一副管長

トーマス・S・モンソン

# わ

たしは初等協会の業を愛しています。そこでは教師たちが、イエス・キリストの福音の光の中を歩むように幼い子どもたちを導いています。一人一人の子どもがその子なりの確信をもって、このように歌えるように教えているのです。

「神の子です……

わたしを助けて、導いて

いつかみもとへ 行けるように」<sup>1</sup>

初等協会の教師たちの大きな愛は、少年たちがアロン神権を受けられるよう備える姿にも現れています。

教師の指示の下に、初等協会の子どもたちには末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条を暗記することが求められています。皆さんも覚えておいででしょう。その中から二つだけ述べてみたいと思います。

「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」<sup>2</sup>

「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言っ



バプテスマのヨハネは、  
信仰、悔い改め、  
水に沈めるバプテスマ、  
そして聖霊たまものの賜物の授与に  
ついて説きました。  
初等協会の教師たちの  
大きな愛は、少年たちが  
アロン神権を受けられるよう  
備える姿にも現れています。  
このアロン神権は、  
バプテスマのヨハネが  
持っていたのと同じ神権です。

でもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。』<sup>3</sup>

わたしたちを導くうえで、信仰箇条以上に確固としたよりどころ、基本的な教えがほかにあるでしょうか。教師たちはどの少年もこのような標準を知り、それに従って生活するようにと望んでいます。このことは、何とすばらしい祝福をもたらしていることでしょうか。教師たちは「わたしの羊を飼いなさい、わたしの小羊を養いなさい」<sup>4</sup> という神の命令を、自分の身に引き受けてくれているのです。

次のように尋ねる人がいるかもしれません。このような準備を必要とするアロン神権にはどのような意義があるのでしょうか。アロン神権は、少年の生活においてほんとうに大切なのでしょう。アロン神権は、「大神権、すなわちメルキゼデク神権に付属するものであり、外形上の儀式を執行する力を持つ」<sup>5</sup> とあります。バプテスマのヨハネはアロンの子孫であり、アロン神権の鍵を保有していました。バプテスマのヨハネの生涯とその使命を振り返ってみると、アロン神権の大切さがたぶんもっとよく理解できると思います。

その昔、遠く離れたパレスチナの地は他国の支配を受けていました。その地で一つの不思議な奇跡が起きました。世相は暗く、動乱の時代でした。このような状況にあった、ユダヤの王ヘロデの世に、ザカリヤという名の祭司がいました。妻の名はエリサベツでした。「ふたりとも神のみまえに正しい人」<sup>6</sup> でしたが、子どもが欲しいという長年の切なる望みもむなしく、ザカリヤとエリサベツには子どもがありませんでした。

そして、忘れることのできないあの特別な日がやって来るのです。ザカリヤに天使ガブリエルが現れて、このように言います。「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞き入れられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。……

彼は主のみまえに大いなる者とな[る。]」<sup>7</sup>

エリサベツは身ごもり、やがて月が満ちて男の子を産みました。その子は天使の指示に従って、ヨハネと名付けられました。

主なるイエス・キリストと同様、僕ヨハネについても、若

いころに関する記録はほとんどありません。誕生から荒野野に入って公に伝道を始めるまでの30年という期間を知る手がかりが、わずか一文に託されているだけです。「幼な子は成長し、その霊も強くなり、そしてイスラエルに現れる日まで、荒野にいた。」<sup>8</sup>

ヨハネは古代の預言者たちと同様、らくだの毛衣を身にまとい、食物は荒野野で得られるいなごや野蜜でした。ヨハネが伝えたメッセージは簡潔そのものでした。ヨハネは信仰、悔い改め、水に沈めるバプテスマ、そして自分が持っているよりも大きな権能による聖霊の賜物の授与について説きました。

「わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である。」<sup>9</sup> 「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。」<sup>10</sup> 「このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。」<sup>11</sup> ヨハネはこのように、自分を信じる人々に述べました。

それから、キリストにバプテスマを施すというヨハネの使命のクライマックスともいべき出来事が起こったのです。イエスはヨハネから「バプテスマを受けよう」と、わざわざガリラヤから出て来られました。ヨハネはへりくだった心と、悔いる霊とをもって嘆願します。「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。」しかし、イエスは答えて言われます。「すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。」<sup>12</sup>

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上を下ってくるのを、ごらんになった。

また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』」<sup>13</sup>

ヨハネは、イエスが世の贖い主であられることを大胆に証しました。恐れず、勇気をもって、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」<sup>14</sup> と教えています。

救い主は後に、ヨハネについて次のように証しておられます。「女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。」<sup>15</sup>

このようにして、ヨハネの公の伝道は終わりへと近づいていきます。初めのころ、ヨハネはパリサイ人やサドカイ人の偽善と世俗的なところを非難していましたが、今や王の墮落を公然と非難するようになりました。その結果がど



**教師たちはどの少年も信仰箇条に記されているような標準を知り、それに従って生活するようにと望んでいます。このことは、何とすばらしい祝福をもたらしていることでしょうか。教師たちは「わたしの羊を飼いなさい、わたしの小羊を養いなさい」という神の命令を、自分の身に引き受けてくれているのです。**

うなったかはよく知られているところです。王の弱さと一人の女性の狂暴さによって、ヨハネは死に追いやられてしまいます。

しかし、遺体が置かれた墓も彼をとどめることはできず、殺人という行為も彼の声を制することはできませんでした。わたしたちは世の人々の前に宣言します。すなわち1829年5月15日、ペンシルベニア州ハーモニーにおいて、「自らヨハネと名乗った」一人の天使が、復活した体をもってジョセフ・スミスとオリバー・カウドリを訪れたのです。「このヨハネは、新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている人物」です。「この天使は、メルキゼデクの神権と呼ばれる大神権の鍵を持っている昔の使徒、ペテロとヤコブとヨハネの指示の下に務めを果たしていることを説明した。」<sup>16</sup> ア

ロン神権はこうして地上に回復されたのです。この記念すべき出来事のおかげで、わたしはこの末の日に、何百万人もの若い男性と同様、アロン神権を持つ特権を与えられました。わたしにアロン神権のほんとうの意義を教えてくれたのは、今は亡きポール・C・チャイルドステーキ会長です。

あれはわたしが18歳の誕生日を控えて、軍隊に入る準備をしていたときです。当時は第二次世界大戦のさなかでした。そのとき、わたしはメルキゼデク神権を受けるように推薦を受けたのです。わたしはまずチャイルドステーキ会長に電話をして、面接の約束を取ることになりました。チャイルドステーキ会長は聖文を愛読し、聖文に深く通じた人でした。そして、ほかの人も皆同じように聖文に親しみ、聖文を理解すべきであるというのが彼の考えでした。彼がどちらかといえば詳細にわたって、鋭い面接をする人であることは、ほかの人々から聞いて知っていました。チャイルドステーキ会長に電話したときの会話は次のようなものであったと記憶しています。



イエスはヨハネから「バプテスマを受けよう」と、わざわざガリラヤから出て来られました。ヨハネはへりくだった心と、悔いる霊とをもって嘆願します。「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。」しかし、イエスは答えて言われます。「すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。」

「もしもし、チャイルドステーキ会長ですか。モンソン兄弟です。実は監督から、ステーキ会長の面接を受けるように言われましたのでお電話しました。」

「いいですよ、モンソン兄弟。それでいつわたしのところに来られますか？」

彼のワードの<sup>せいさん</sup>聖餐会が6時から始まることを知っていたので、わたしは聖文に関する知識のなさをできるだけ知られまいとしてこう提案しました。「5時ではいかがでしょうか。」

すると、次のような答えが返ってきたのです。「おや、モンソン兄弟、それでは二人で聖文を読む時間が足りませんね。2時に来てくださいませんか。印や書き込みの入った自分の聖典を全部持ってね。」

そして、ついに約束の日曜日が来ました。わたしはインディアナ通りにあるチャイルドステーキ会長のお宅に伺いました。チャイルドステーキ会長は温かく迎えてくださり、それからすぐ面接が始まりました。「モンソン兄弟、あなたはアロン神権を持っていらっしゃいますが、これまでに天使の働きを感じたことがありますか？」



「いいえありません、チャイルド会長。」わたしはそう答えました。

ステーキ会長の質問は続きます。「あなたは自分にその資格があることを御存じですか？」

わたしの返事はまたしても「いいえ」でした。

すると、彼はこのように言いました。「モンソン兄弟、教義と聖約第13章を暗唱していただけますか。」

わたしは始めました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵……。」<sup>17</sup>

そこまで暗唱したとき、チャイルドステーキ会長が「そこまででけっこうです」と言いました。そして、落ち着いた優しい声でこのように忠告してくれたのです。「モンソン兄

弟、あなたはアロン神権の保有者として天使の働きの鍵を受け資格があることを、決して忘れないでください。」その日、部屋にはまるで天使がいたかのような様子でした。わたしはこの面接をいまだかつて忘れたことはありません。あのときの厳粛な雰囲気は今でも覚えています。わたしは全能の神が与えてくださったこの神権を敬っています。わたしはこれまでその力と権能をこの目で見てきました。わたしは神権によって成し遂げられる奇跡に驚嘆してきました。

ほぼ50年前のことになりますが、アロン神権の祭司の権能を持った一人の少年がいました。当時わたしは監督の職にあり、その少年の定員会の会長でした。ロバートという名のこの少年は、どもる癖がありました。人目を気にし、内気で、他人だけでなく自分自身にも恐れを抱いていた彼は、言語障害に苦しみ、すっかり自信をなくしていました。割り当てを果たしたことは一度もなく、ほかの人の目を避けて、いつも下を向いてばかりいる少年でした。ところがある日、予期しないことが起こり、彼はバプテスマを施す祭司の義務を果たす割り当てを受け入れたのです。

聖なるタバナクルのバプテスマフォントで、わたしは彼の隣に腰かけました。彼は染み一つないまっ白な衣を着て、これから行う儀式の準備をしていました。わたしはロバートにどんな気持ちかを尋ねました。ロバートは床を見詰めたまま、恐れを感じていることをしどろもどろに話してくれました。

ロバートとわたしは、彼がその務めを果たせるようにと心から祈りました。そのとき、書記の兄弟が次のように言いました。「ナンシー・アン・マッカーサー姉妹が、今から祭司のロバート・ウィリアムズ兄弟からバプテスマを受けます。」ロバートは席を立て、フォントの中に入って行きました。そして、幼いナンシーの手を取って、人の命を清め、霊的な再生をもたらす水の中に彼女を招き入れました。それからロバートはまるで天を仰ぐかのように一点を見詰め、右腕を直角に曲げて、こう言ったのです。「ナンシー・アン・マッカーサー、わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン。」<sup>18</sup> ロバートは一度もどもりませんでしたし、口ごもることもありませんでした。現代の奇跡を見る思いでした。

更衣室の中で、「彼もこれからはいつでもすらすらと話せることだろう」と思いながら、わたしはロバートに「おめでとう」と言いました。しかし、それは間違いでした。ロ

バートは相変わらず下を向いて、口ごもりながら「ありがとうございます」と答えたのです。

わたしは証します。ロバートはアロン神権の権能によって務めを果たしたとき、力と確信をもって、また天からの助けによって語ったのです。

ヨハネ、すなわちバプテスマのヨハネと呼ばれている人の受け継ぎとはこのようなものです。わたしたちは今も彼の声を聞くことができます。その声は謙遜になることを教えてくれます。勇気を奮い起こし、信仰を鼓舞してくれます。

わたしたちがバプテスマのヨハネの伝えたメッセージによって奮い立ち、彼の使命から靈感を受けられますように。そして、ヨハネの生涯によって高められ、アロン神権とその聖なる力について十分に理解することができますように。

□

#### 注

1. 「神の子です」『賛美歌』189番、『子供の歌集』2
2. 信仰箇条1:1
3. 信仰箇条1:13
4. ヨハネ21:15-16参照
5. 教義と聖約107:14
6. ルカ1:6
7. ルカ1:13, 15
8. ルカ1:80
9. ヨハネ3:28
10. ルカ3:16
11. マタイ3:11
12. マタイ3:13-15参照
13. マタイ3:16-17
14. ヨハネ1:29
15. マタイ11:11
16. 教義と聖約13章前書き
17. 教義と聖約13:1
18. 教義と聖約20:73参照

#### ホームティーチャーへの提案

1. 初等協会の教師は、親が子どもたちにイエス・キリストの福音を教えるうえで大きな助けとなっている。
2. わたしたちは、福音を教えるに当たって、アロン神権とバプテスマのヨハネの務めの重要性を含める必要がある。
3. バプテスマのヨハネの務めから、わたしたちは謙遜さと勇気、信仰を学び取ることができる。

# イギリス

## の福音のルーツを探る

預言者たちはかつて、この地を歩きました。  
そして今、10代の若者たちは彼らの歩んだ道をたどっています。

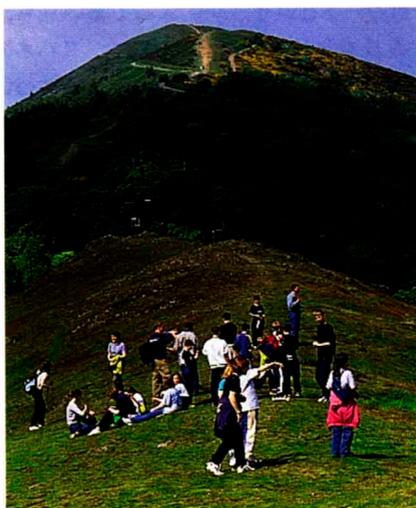
ジャネット・トーマス

よく晴れたある土曜の朝、ウェールズ・カーディフステークの青少年たちは、昼食をリュックに詰め、大きな期待を胸に、アロン神権の回復を記念し、イギリス諸島における福音のルーツを探る特別活動へと出かけました。

この地域に福音が宣べ伝えられた歴史は非常に古く、160年前までさかのぼります。それは、青少年たちを乗せたバスが今通っている道をウィルフォード・ウッドラフ(1807-1898年)とブリガム・ヤング(1801-1877年)が歩んでいた時代です。当時十二使徒であったヤング長老とウッドラフ長老は二人とも、後に教会の大管長となりました。

1台の車両に大勢の若者が乗っているのも、バスがウェールズを出てイギリスの国境に差しかかるときも車内は大騒ぎです。皆話が弾み、楽しい時間を過ごしています。青少年たちはあらゆる機会を利用して集まるのが好きです。同じ信仰を持つ仲間とともに過ごすのが大好きなのです。

クーンブランワードのシャルロット・フォワード(15歳)は、ブラックウッドワードのキャサリン・エリオットとニューポート・グウェントワードのレイチェル・グリフィスという二人の友達と一緒に活動するのがとても好きです。普段、彼女たちが顔を合わせる機会はステークの活動しかありま



せん。そのため、一日中ともに過ごせるのは何よりの喜びです。「ウェールズは暮らすには素晴らしい所です。皆一緒にいて楽しい人たちがばかりです。ステークの中で仲良くやっています。教会員として、わたしは家族でおよそ7世代目に当たります。先祖の一部はユタ

へ移住しましたが、残った人々もいました。今は、この地域の至る所に親戚しんせきがいます」とシャルロットは語ります。

バスはレドバリーという村に到着しました。中心街に開かれている古いかわいらしい屋根のある屋外市場を除けば、そこは比較的普通の田舎町です。ステーク若い男性会長であるアンドリュー・ディアデンは青少年たちに、この地域に来た最初の宣教師は市場の中央で福音を教えたことを説明しました。数年後には自らも伝道に出る何人かの若い男性は、バスを降りて市場の古い屋根の下に行きました。そこに立って町の人々に福音について話す勇気が彼らにあるでしょうか。もし人々が聞く耳を持たなかったら、彼らはどう対応するでしょうか。

160年前に生きていた人々の中には、ウィルフォード・ウッドラフの説教をたった一度聞いただけで、バプテスマを受けたいと申し出た人もいます。青少年たちは、それらの宣教師が福音を宣べ伝えることに対してそれほど大きな成



挿入上, 中央——イギリスに到着した最初の宣教師たちはレッドバリー村で教えた。背景, 左ページ——マルバーンヒルズの頂上で, ウィルフォード・ウッドラフは福音を宣べ伝えるためにこの地域を奉獻した。



功を取めたことに心底驚きました。伝道に出る日を心待ちにしているクライブ・ウィルキンソン(18歳)は、この地域に住むあまたの人々が宣教師の言葉を聞き、信じたことに感銘を受けました。

クライブは次のように語ります。「たった一度話を聞いただけで人々が改宗したのは驚くべきことです。ほくはステーキ宣教師ですが、今の時代は宣教師と伝道に出かけても、そんなことはまずありません。家の中に入れるだけでも幸運です。当時の宣教師たちがだれも聞いたことのない新しい宗教をこの地で宣べ伝えたとき、人々が彼らを信じてすぐに改宗してしまうほどの信仰を持ったことは驚きです。」

次に停車する二つの場所はそれぞれ種類が異なりますが、どちらも教会歴史の中でしばしば登場する名所です。先に停車する場所はマルバーンヒルズです。ウィルフォード・ウッドラフは福音を宣べ伝えるため、この地域を奉獻

しましたが、実際に奉獻の祈りをささげたのがこの場所です。昼食の後、青少年たちは小道を登って行きました。道路や家はどんどん遠ざかり、草で覆われた山頂の斜面に着きました。そこ

からは足もとに広がるイギリスのヘレフォードシャー郡が一望できます。そして、来た方を振り返るとウェールズが見えます。

次の停車場所はジョン・ベンボアの農場です。現在、農場自体は私有地になっていますが、多数の改宗者がバプテスマを受けた小さな池は教会が購入し、管理しています。青少年たちは刈られたばかりの草の上でくつろぎ、ウィルフォード・ウッドラフがこの地で宣教師として働いていたときの感動的な光景を思い浮かべようとしていました。

ウッドラフ長老は日記の中で、自分が主によってこの地に導かれたように思うと記しています。彼は何キロも馬車で移動し、それからさらに何キロも歩きました。彼はジョ

## マルバーンヒルズ

マルバーンヒルズは、イギリス南西部に位置する高い尾根で、頂上は草で覆われており、約50キロ四方に壮大な景観が広がっています。最高地点はヘレフォードシャービーコンです。

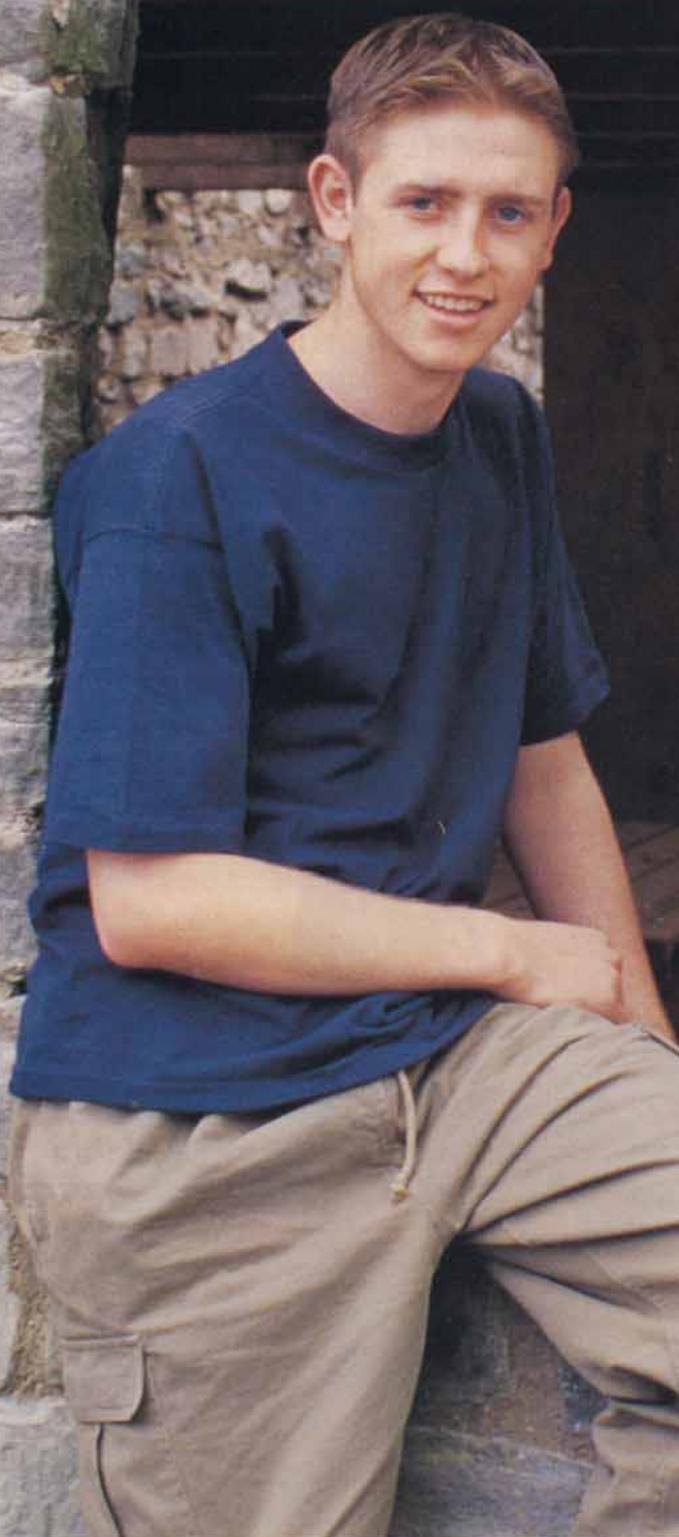
1840年3月、ウィルフォード・ウッドラフはマルバーンヒルズを登ったときの経験について次のようにつづっています。「9日、コルウェルへ歩きながら、自然と創造主の力を概観する機会があった。これは標高1,200から1,500フィート〔360-460メートル〕まで達するマルバーンヒルズの頂上に立ったときの経験である。……この有名な丘陵の上から、目の前に広



がる壮大で美しい光景を眺めていると、雷鳴がとどろき始め、谷間でいならずが光り、滝のような雨が降り始めた。雨雲よりも高いその丘に立ちながら、わたしは創造主のすばらしい業と嵐の中にある主の威厳を概観し、その風景の荘厳さと雄大さに感銘を受けた。」(Wilford Woodruff,

148-149で引用)

ビーコンヒルの上で、十二使徒定員会の会員であった、ブリガム・ヤング長老、ウィルフォード・ウッドラフ長老、ウィラード・リチャーズ長老は皆、祈りによって、イギリスでモルモン書と賛美歌集を出版することを決定しました。これらの幹部たちの住む周辺には神殿が存在していなかったため、様々な重要な決定をする際は、しばしば主と相談するためにマルバーンヒルズを訪れました。これらの丘陵、特にビーコンヒルは教会歴史において神聖な場所として位置づけられています。



ガドフィールドエルの礼拝堂は、アメリカ以外で教会が所有した最初の建物である。現在は重要な教会史跡として修復されている。



「ガドフィールドエルム礼拝堂」アル・ラウンス画

## ガドフィールドエルム礼拝堂

ガドフィールドエルム礼拝堂は1836年にキリスト教の一派である同胞教会によって建設されました。1840年の春から夏にかけて教会に加わった同胞教会によって寄付されたこの礼拝堂は、新しくバプテスマを受けた聖徒の大半がノーブーへ移住するまで幅広く利用されました。聖徒たちが移住する際、移住の費用獲得のため礼拝堂は売却されました。

ガドフィールドエルム礼拝堂はすっかり荒廃してしまいましたが、1995年に地元の会員が購入し、原型を描いた絵や外観を説明した記述などを基に160年前と同じ姿に復元しました。2000年4月、同胞教会の最初の指導者の子孫である、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はこの礼拝堂を再奉献しました。この建物は、時折教会の集會に使用されます。また、教会歴史に関心がある人々が訪問することもできます。

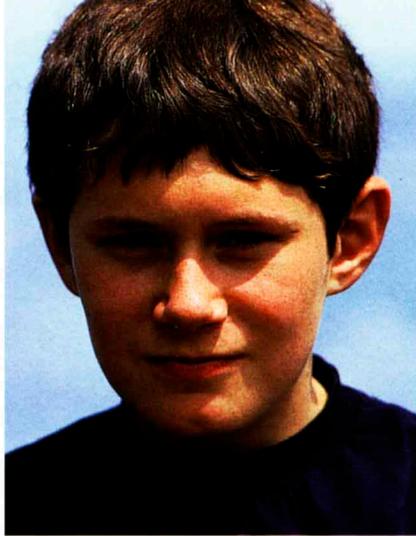
ン・ベンボーという裕福な農夫とその妻ジェーンに会いました。この夫婦は、当時の伝統的な宗派から分派した、規模の大きな団体に所属していました。ウィルフォード・ウッドラフは次のように記しています。

「〔ジョン・ベンボーは〕その晩彼の家で、アメリカ人宣教師が福音を教えると近所中に知らせた。時が近づくにつれ、近所の人々がたくさん詰めかけ、わたしはその家で初めて、福音について教えた。翌日の晩も同じ場所で教え、ジョン・ベンボー氏と彼の妻、同胞教会（その地域の主要な宗派からの脱退者で組織された団体）の説教者4人を含めた、6人にバプテスマを施した。

ベンボー兄弟の家の近所に建っている地元の教会は、教会区の牧師が管理しているが、昼間集っていたのはわずか15人であった。一方、わたしの集會は昼夜にわたって、およそ1,000人もの大勢の聴衆であふれていた。」（マサイス・F・カウリー、*Wilford Woodruff: History of His Life and Labors*〔1964年〕117-118で引用）

その場に集った約1,000人の聴衆の多くはバプテスマを受け、改宗者たちはイギリスで最初の教会の支部を幾つか設立しました。ジョン・ベンボーとジェーン・ベンボー、トーマス・キングトンはイギリス版のモルモン書の初版と末日聖徒の賛美歌集の出版費用を援助しました。

**ウィルフォード・ウッドラフは、ある団体に所属する人々全員が福音を聞くために備えられていた地域へ導かれた。彼は、ジョン・ベンボーの農場にある池（上中央）で約600人にバプテスマを施した。**



1840年のその数か月間に、ウィルフォード・ウッドラフは、脱退者で組織されたその団体の中で、一人を除いて全員にバプテスマを施しました。その数は、総計で約600人に上ります。

ウッドラフ長老はまた、ほかの宗派に所属していた1,200人以上の人々にもバプテスマを施しました。これらバプテスマを受けた人々の多くはノーブーに集合するため、土地や財産を売り払ってイギリスを離れました。そして、ノーブーでは教会を支える大きな力となりました。彼らは後にノーブーを追われ、平原を渡り、合衆国西部で新しい地域社会を建設しました。今日、彼らの影響力は地上の至る所に及び、その子孫の多くは引き続き主の業を推し進めています。

ベンボアの農場では、池のほかに見るべきものは特にありませんでしたが、青少年たちは静かに見入っていました。その場の静寂な雰囲気が一人一人の心にしみ込むのを感じたのです。「わたしたちより以前にいた人々のことを思うと、とても特別な気持ちを感じます。指導者から聞いていた場所を実際に見ることができてうれしいです」とブラックウッドワードのスージー・テラーは言います。

最後の停車場はガドフィールドエルム礼拝堂跡地です。青少年たちが訪れたときには、石壁だけが建っていました。屋根は失われ、建物の内部にはいら草が生えていました。この礼拝堂は、教会がアメリカ以外で最初に所有した建物です。人々が礼拝堂まで曲がりくねった田舎道を歩いていた160年前の光景が容易に思い浮かびます。しかし、ウィルフォード・ウッドラフが説教を行ったときの力と

御霊を想像するのは、それよりやや難しいかもしれません。人々は一晩で真理を知り、人生の方向性が変わったのです。

当時植えられた種は今も、それらの奇跡が起きた場所に足を運ぶ青少年たちの心の中で開花しています。カーフィリー支部のジョセフ・パリーはこのように語っています「ほんとうに、心から驚いています。これらの史跡がほくたちの周囲にあるのですから。教会歴史はアメリカだけの話だと思っていましたが、実はイギリスにも存在していたことが分かりました。」□

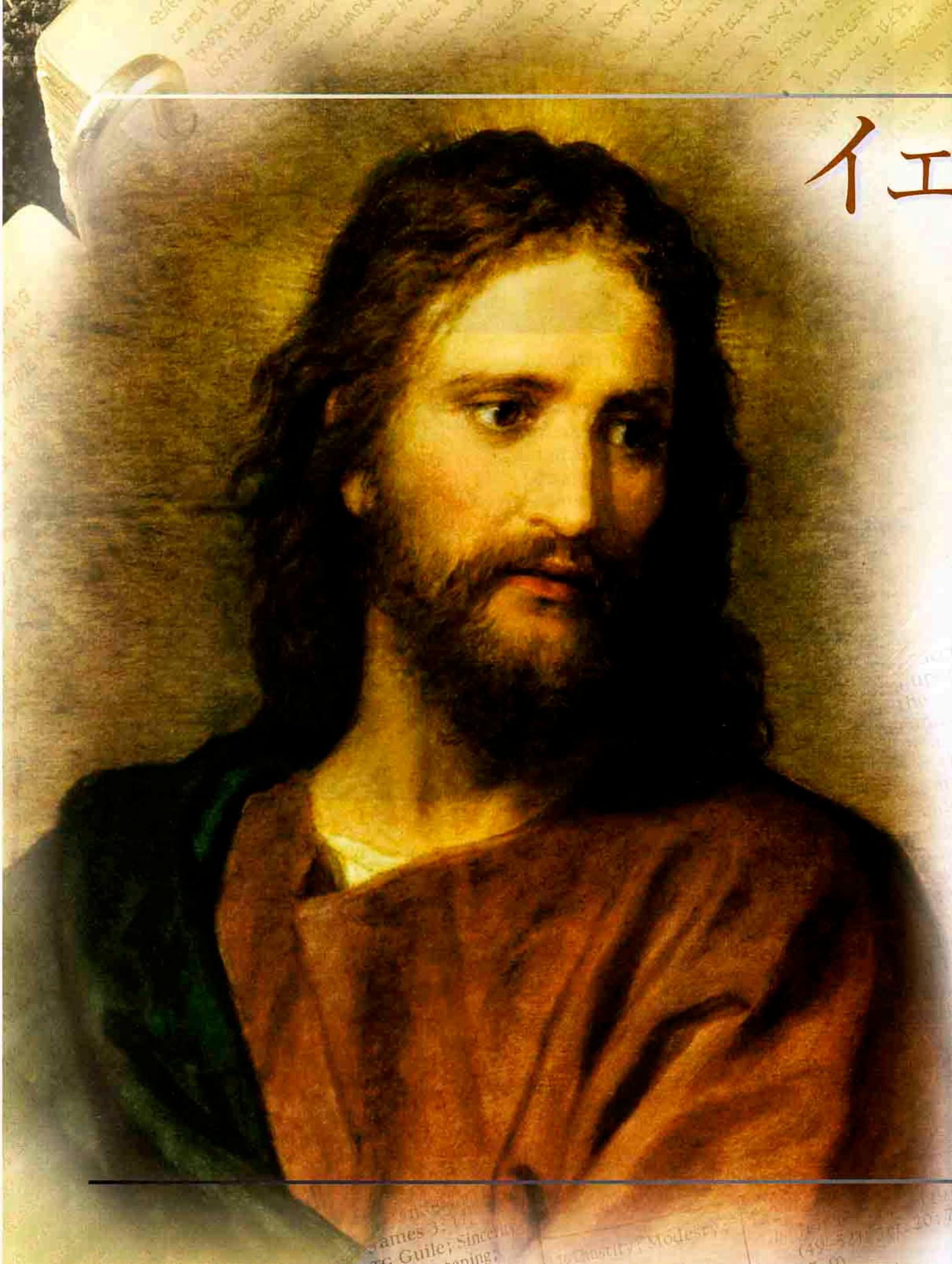


「ベンボアの農場」フランシス・マゲルヒ画

## ジョン・ベンボアの農場の池

ジョン・ベンボアの農場にあるこの小さな池は1840年に施された数多くのバプテスマの舞台となりました。3月5日、ウィルフォード・ウッドラフはジョン・ベンボアとジェーン・ベンボア、そして同胞教会という地元の宗派の説教者4人にバプテスマを施しました。ウッドラフ長老は翌日の様子についてこのように記しています。「大勢の人がバプテスマを受けると思い、〔一日中〕池をきれいにし、準備していた。後に、その池で600人にバプテスマを施した。」(Wilford Woodruff, 117で引用)

イ工



# ス・キリストについての 不可分の証の書

七十人 ジョン・M・マドセン

教義と聖約はモルモン書が真実であることを証しており、両書とも救い主について証する書物です。

## 教

義と聖約とモルモン書は、イエス・キリストの神性と主の偉大な末日の業について証する不可分の力強い証の書です。これら二つの聖典は、主

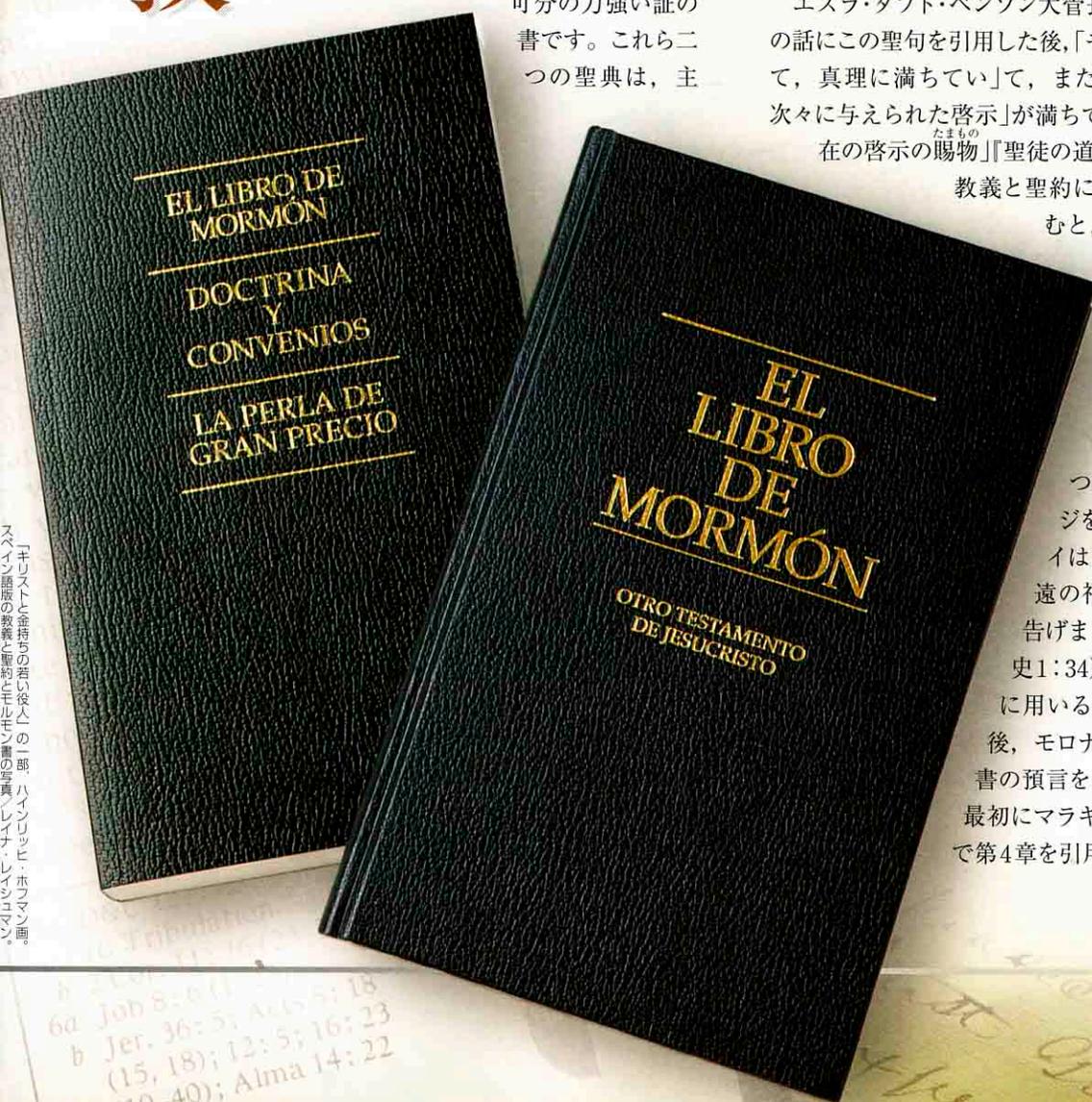
がエノクに告げられた約束を少なくとも一部成就しています。「また、わたしは天から義を下そう。また、地から真理を出して、わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活と、またすべての人の復活について証しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし、わたしが備える場所、すなわち聖なる都に地の四方からわたしの選民を集めよう。」(モーセ7:62)

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は大会の話にこの聖句を引用した後、「モルモン書は地から出て来て、真理に満ちてい」て、また教義と聖約には「天から次々に与えられた啓示」が満ちていると語っています(「現在の啓示の賜物」『聖徒の道』1987年1月号、86)。

教義と聖約に収められている啓示を読むと、モルモン書の重要性について多くを学ぶことができます。

## モルモン書と 教義と聖約のきずな

「金版に記された書」についての栄えあるメッセージを伝えた折に、天使モロナイは、「それには……完全な永遠の福音が載っている」ことを告げました(ジョセフ・スミス-歴史1:34)。その書物を翻訳する際に用いる手段について短く話した後、モロナイは、旧約聖書と新約聖書の預言を引用して語り始めました。最初にマラキ書第3章を引用し、次いで第4章を引用しました。教義と聖約第



2章にはこの訪れについての短い記録があります。

その後、1828年の夏に、預言者ジョセフ・スミスは、モルモン書の翻訳に関連してさらに二つの啓示を受けました。第3章と第10章はマーティン・ハリスに託された116ページの原稿に関するものです。その原稿は「その書き物を家に持ち帰って見せる」ことができるように託されたのです(*History of the Church*, 第1巻, 21)。

1829年2月、ジョセフ・スミス・シニアが息子のもとを訪れました。彼はこれまでに起こったことをすべて十分に理解していました。すなわち、若いジョセフへの御父と御子の示現、「いつか将来、完全な福音が知らされる」と主が述べられた約束(*History of the Church*, 第4巻, 536)、天使モロナイの現れ、金版の受け取り、翻訳作業、116ページの原稿の紛失、金版とウリムとトンムムが取り去られた後に、また返されたことです。このときに預言者ジョセフは父親に代わって主に伺い、第4章の啓示を受けました。この章は「さて見よ、驚くべき業が、まさに人の子らの中に現れようとしている」という言葉で始まっています。モルモン書の翻訳は主の驚くべき末日の業の一部であり、その業に欠かせないものでした。

1829年3月、マーティン・ハリスは116ページの翻訳文を失ったことを心から悔い、悲しみ、ペンシルベニア州ハーモニーに向かって再び旅立ちました。そして、自分に代わって主に伺ってくれるようにジョセフに頼みました。そこで再び預言者はもう一つの啓示、第5章を受けました。その中でマーティン・ハリスは、悔い改めて主の前にへりくだるならば金版についての証人になるという召しを受けました。

1829年4月、ジョセフが金版を受け取ったと聞いたオリバー・カウドリは、ペンシルベニア州ハーモニーに旅をし、間もなく翻訳の作業に携わることになりました。筆者と

してジョセフを助けたのです(*History of the Church*, 第1巻, 32-33参照)。この月にモルモン書の翻訳に関連して幾つかの疑問が起こり、第6, 8, 9章が与えられました。

第13章は、モルモン書の翻訳中に生じた疑問に対する答えとして預言者に与えられた啓示のすばらしい一例です。ジョセフはこう述べています。「わたしたちはなおも翻訳の仕事が続けていたが、その翌月(1829年5月)のある

日、わたしたちは、版の翻訳の中に述べられているのを見つけた罪の赦しのためのバプテスマに関して主に祈って伺うために、森の中に入って行った。わたしたちがこのようにして祈って、主に呼び求めているとき、天からの使者が光の雲の中を降って来られた。そして、その使者はわたしたちの上に手を置き、次のように言ってわたしたちを聖任された。

『わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の

働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。』(ジョセフ・スミスー歴史1:68-69。68節に強調付加。教義と聖約13章も参照)

この天からの使者は自ら「ヨハネ」と名乗りました。「このヨハネは、新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている人物」です。さらに、この使者は、自分は「メルキゼデクの神権と呼ばれる大神権の鍵を持っている昔の使徒、ペテロとヤコブとヨハネの指示の下に務めを果たしている」と語りました。そして、「ふさわしいときに……メルキゼデクの神権が授けられる」と彼らに告げました(*History of the Church*, 第1巻, 40)。こうしてモルモン書の出現は教義と聖約に記載されている数多くの啓示をもたらしただけでなく、聖なるアロン神権とメルキゼデク神権の回復のきっかけともなりました。この神権の回復はこの末日に教会と神の王国が再び設立される備えとなったのです。

**「金版に記された書」  
についての栄えあるメッセージを  
伝えた折に、  
天使モロナイは、  
「それには……完全な永遠の  
福音が載っていること」を  
告げました。**

さらに第14, 15, 16, 17, 18, 19, 20章もすべて、モルモン書の出現と教義と聖約の関係を告げています。

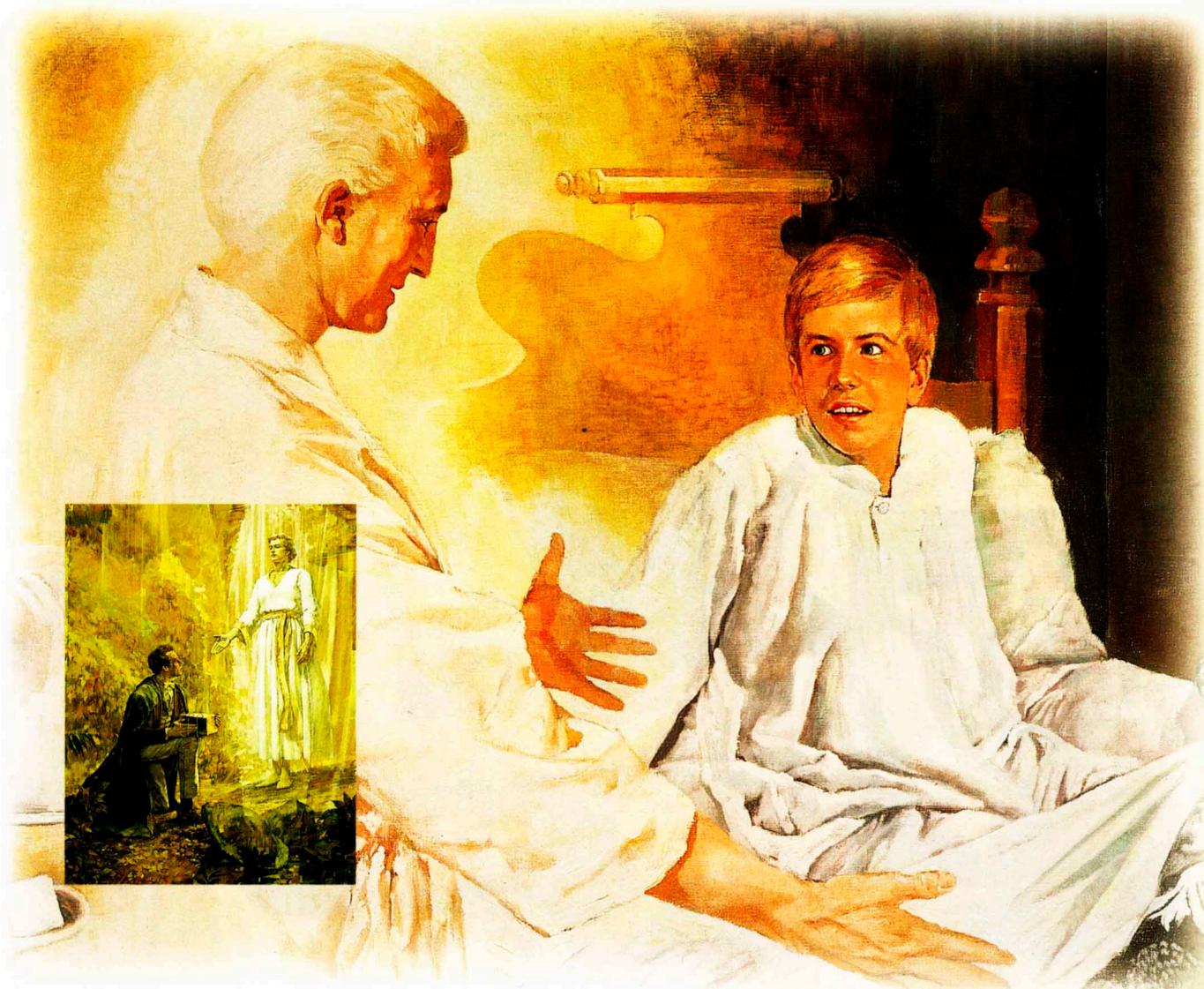
### モルモン書の重要性についての教え

モルモン書の翻訳と出現、ならびに教会の組織後、1年半と少したったとき、主は教義と聖約第1章に記されている「はしがき」を啓示されました。啓示されたこの「はしが

き」の中で、主は、預言者ジョセフ・スミスには「神の<sup>あわ</sup>憐れみによって、神の力により」モルモン書を翻訳する力が与えられたと証しておられます(教義と聖約1:29)。

第3章の中で、主は、モルモン書が世に出された目的を幾つか述べておられます。

「ユダヤ人の証によって救い主のことが世に知られるようになったが、まさにそのように、救い主のことがわたし



ジョセフ・スミスを訪ねるモロナイ・デル・キルボーン画。挿入画「金版を授けられたジョセフ・スミス」ナタリー・シム画。

の民にも知られるようになるであろう。

すなわち、ニーファイ人……に、彼らの先祖の証によって〔知られるようになるであろう。〕

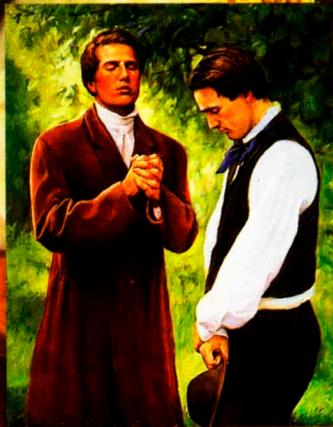
また、この証はレーマン人……にも知られるようになるであろう。……

そして、まさしくこの目的のために、すなわち、主がその民に与えた約束が果たされるために、これらの記録

が載せられている版は保存されているのである。

また、レーマン人が彼らの先祖についての知識を得、主の約束を知り、そして福音を信じてイエス・キリストの功德に頼り、イエス・キリストの名を信じる信仰によって栄光を得、また悔い改めることによって救われるためである。』（教義と聖約3：16-20、強調付加）

第5章の中で、主は、福音の回復におけるモルモン書の



重要性について多くのことを述べておられます。主はジョセフに次のことを思い起こさせておられます。「あなたは版を翻訳する賜物を持っている。これは、わたしがあなたに授けた最初の賜物である。そしてわたしは、これによってわたしの目的が達せられるまで、ほかの賜物を求めてはならないと命じた。これが終わるまで、わたしはあなたにほかの賜物を授けないからである。」(教義と聖約5:4, 強調付加)主は、僕ジョセフ・スミスに対し、主の偉大な末日の業が進められる前にモルモン書が翻訳され、世に出されなければならなかったことを明らかにされました。

さらに第5章5節から16節で、主は、地上に主の王国を設立するのになぜモルモン書がそれほど重要であるかを説明しておられます。これらの節の中で、主は、モルモン書のことを述べるのに「わたしの言葉」という表現を繰り返し使用しておられます。モルモン書は預言者ジョセフ・スミスを「通して」間もなく世に出されるはずでした(3ニーファイ21:9-11も参照)。人の子らは「[モルモン書に記されている]わたしの言葉を信じなければ……わたしの僕ジョセフ……を信じないであらう」と(教義と聖約5:7, 強調付加)、主は述べておられます。

これら幾つかの聖句は、「モルモン書は……わたしたちの宗教のかなめ石である」と預言者ジョセフが述べた偉大な真理を示しています(*History of the Church*, 第4巻, 461)。モルモン書が神から与えられたものであること、そしてその真実性についての証は、イエスがキリストであられ、ジョセフ・スミスがまことの預言者であり、預言者ジョセフによって組織された末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であることを確認しています。地上のすべての国々の勇氣ある人々が、このような御霊の証を得て回復された福音を受け入れています(教義と聖約5:16参照)。

教義と聖約第6章9節の中で、主はオリバー・カウドリに、「わたしの業を起こす助けを」するように指示されました。そして、オリバー・カウドリは実際、「完全な福音」が記されているモルモン書をもたらす器となりました(教義と聖約20:8-9; 27:5; 42:12; 135:3参照)。主は「人の子らの中に驚くべき業を行い、彼らの多くに罪のあることを自覚させ、彼らが悔い改めて、……父の王国に来られるように」するため(教義と聖約18:44)、この記録を手にした僕たちを遣わされました。

教義と聖約第17章には、モルモン書について記録されたすべての証の中で最も明瞭かつ力強い証の一つが記されています。モルモン書は主イエス・キリストについての「もう一つの証」であり、その主イエス・キリストが「わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアが……その[モルモン]書を、すなわちわたしが彼に命じた部分を翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である」と

宣言しておられます(教義と聖約17:5-6)。

この証を読み、あるいは耳にしながらか、主はモルモン書をどのように思っておられるのかと考える人がいるでしょうか。これらの言葉を耳にし、あるいは読み、深く考えることはきわめて大切なことです。モルモン書を拒むなら、あるいはキリストとキリストの王国の大義に不忠実であるなら、それらの言葉はわたしたちに罪の宣告を下すのに十分です(教義と聖約5:15, 18参照)。

1829年6月、主は預言者の筆記者であるオリバー・カウドリに、モルモン書の真実性と重要性について次のように力強く証を述べられました。「見よ、わたしは、あなたが記してきたものが真実であることを、度々わたしの御霊によって示してきた。……

そして……見よ、わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは記されているものに頼りなさい。

**主は預言者の筆記者である  
オリバー・カウドリに、  
「[モルモン書]の中には、  
わたしの教会とわたしの福音と  
わたしの岩の基について、  
すべてのことが記されている」と  
述べられました。**

その中には、わたしの教会とわたしの福音とわたしの岩の基について、すべてのことが記されているからである。

それゆえ、あなたがわたしの福音とわたしの岩の基の上にわたしの教会を築き上げるならば、地獄の門もあなたに打ち勝つことはない。」(教義と聖約18:2-5, 強調付加) このように、モルモン書には、主御自身が証されたように、回復されたイエス・キリストの教会の基本的な教えが記されています。

教義と聖約第20章には、モルモン書についてさらに多くのことが述べられています。モルモン書が翻訳され出版されるまで、教会を正式に組織するための啓示が与えられなかったことには深い意味があります。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが正式に神から召され、神の教会を組織し指導する権能が授けられたことを確認した後、主は次のように宣言されました。

「〔神は〕前もって備えられた手立てによってモルモン書を翻訳するために、高い所から彼〔預言者ジョセフ・スミス〕に力を授けられた。

この書には、ある墮落した民の記録と、異邦人ならびにユダヤ人にあてたイエス・キリストの完全な福音が載っている。

これは靈感によって与えられ、天使たちの働きによってほかの人々に確認され、その人々〔3人の証人〕によって世の人々に知らされるのである。

これらのことは、聖文が真実であること、また神が実に人々に靈感を与えて、昔と同じようにこの時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられることを、世に証明している。

これによって、神は、御自分が昨日も、今日も、またとこしえに変わることはない神であることを示しておられるのである。……

それゆえ、このような大いなる証があるので、世の人々、

すなわち、この後この業〔モルモン書〕について知るすべての人は、これらの証によって裁かれるであろう。

そして、信仰をもってこれを受け入れ、義を行う者は、永遠の命の冠を受けるであろう。」(教義と聖約20:8-14)

第84章の中で、主はもう一つ意義深い言葉を述べ、モルモン書に関して重要な警告を与えられました。1832年、主は聖徒たちにこう述べておられます。

「また、不信仰のために、また自分の受けたものを軽々しく扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった。

この虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた。

この罪の宣告はシオンの子ら、まことにすべての者のうえにある。

彼らが悔い改めて、新しい聖約、すなわちモルモン書と、わたしが彼らに与えた以前の戒めを思い起こし、そしてただ口にするだけでなく、わたしが記してきたものに従って行動するま

で、彼らは依然としてこの罪の宣告の下にある。」(教義と聖約84:54-57, 強調付加)

エズラ・タフト・ベンソン大管長は教会員に対して、モルモン書を研究し、活用し、その教えに従って生活して、昔の末日聖徒に宣言された罪の宣告から解放されるよう重ねて勧めました。

## 結び

実に主は教義と聖約の中でモルモン書について多くのことを述べておられます。これら二つの聖典は実際、キリストの神性とキリストの偉大な末日の業について証する不可分の力強い証の書です。ベンソン大管長はこれら二つの神聖な書物の重要な関係を次のように説明しています。

「モルモン書の証人を別にすれば、教義と聖約はモルモン書が真実であることを述べた、主から与えられた最もす

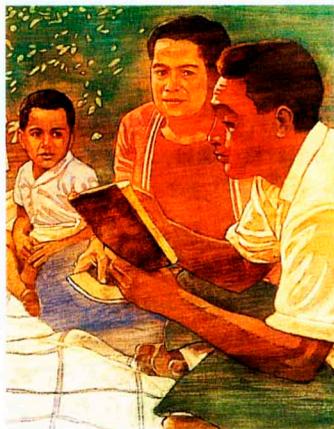
主は聖徒たちに、  
「新しい聖約、すなわち  
モルモン書……を思い起こし、  
そしてただ口にするだけでなく、  
わたしが記してきたものに  
従って行動する」ように  
命じてられました。

ばらしい証です。……

教義と聖約は、モルモン書と、預言者ジョセフ・スミス  
やその後継者を通して進められてきた回復の御業<sup>みわざ</sup>を結び  
つける一つの輪です。……

モルモン書は人々をキリストのみもとへ導き、教義と聖  
約はキリストの王国……に人々を導きます。……

モルモン書はわたしたちの宗教の『かなめ石』であり、教  
義と聖約は、末日に続けて与えられる啓示とともに、『かさ  
石』とすることができます。主はこのかなめ石とかさ石の二  
つに承認の印を押しておられます。』（『聖徒の道』1987年7  
月号、94-95）□



## 神の武具を身に着ける

**中** 央扶助協会会長のメアリー・エレン・スムート姉妹は次のように語りました。「今こそ自らを主にささげることにより主に豊かな実りへと導いていただき、暗闇と悲惨に満ちたこの世を豊かに潤す時です。わたしたちはだれであろうと、立ち上がって、与えられている機会を活用しなければなりません。主と主の僕の勧告に従い、家庭を祈りの家、安心と安らぎのある避け所としなければなりません。わたしたちは従順と犠牲を通して信仰を深めることができます。」(「シオンの娘よ、喜び歌え」『リアホナ』2000年1月号、113)

世を超越して、義のレベルをそこまで引き上げることは、時折難しく思えます。けれども「神の武具を身につけ」るために努力するならば、「悪しき日に……堅く立ちうる」ことでしょう(エペソ6:13)。

### 神の武具を身に着けるには

第一副管長を務めた故N・エルドン・タナー長老(1898-1982年)は「神の武具を身にまとう人、つまり神のすべての戒めを守る人は、サタンの攻撃に耐えることができます」と述べています。

さらにタナー副管長は続けてこのように語りました。「福音に関する知識と信仰と証を増すために、わたしたちはいつも聖文を研究しているでしょうか。……人との交際や取り引きを正直に行っているでしょうか。安息日を聖く保っているでしょうか。知恵の言葉を守っているでしょうか。自分の一を正直に納めているでしょうか。……心と思いと行いはいつも清く純粋で徳高いでしょうか。

わたしたちの周囲に蔓延する……悪と戦っているでしょうか。自分の信念を守るために立ち上がる勇氣を持っているでしょうか。キリストの福音を恥としていないと心から言えるでしょうか。人の悪口や陰口を言ったり、根も葉もないわさを流したりせず、隣人と平和に暮らしているでしょうか。自分自身を愛するように隣人を心から愛しているでしょうか。

これらの質問にすべて『はい』と答えられる人は、神の武具で身を固めている人であり、必ずや敵の攻撃や害から守られることでしょう。」「(「神の武具で身を固めなさい」『聖徒の道』1979年10月号、65、67-68参照)

### 毎日、霊的に生まれ変わる

ユタ州オレム北ステークのティンパノゴスパーク第1ワードに所属するルシル・ジョンソン姉妹は現在80代です。彼女は一日の始めに霊的な「武具」を身に着けることを若い時代から学んでいました。「わたしは朝早く夫や子どもたちが起きる前に起きていました。そして静まり返った居間で一人ひざまずいて、その日一日にわたしが必要とすることを御父にお願いするのです。このことによって心がとても平安になりました。そして、御父がわたしを助け、守ってくださることを知ったのです。それから、聖典を開いて、靈感と導きを求めます。立ち上がるまでに、わたしは毎朝、自分が一人のときであろうと、あるいは幼い子どもたちや10代の子どもたちと一緒にいるときであろうと、あるいは軍人である夫と一緒にいるときであろうと、自分が戦うべきことを何でも成し遂げることができるという確信を得ていました。

このような経験から、わたしは早朝の静寂の中で時間を取って勉強し、祈ることがとても大切であると固く信じるようになりました。霊を新たにして一日を始めるのです。そうすれば、その日どのようなことが起きてもそれに対応する準備ができていることでしょう。」□



# 父に伝えた福音

シーラ・R・ウッドワード

**父**はアメリカ東部で育ちました。母は、ユタ州の末日聖徒の家庭に生まれました。二人はカリフォルニアで働いているときに会い、数か月間交際しました。その後実家に戻った父は、母と離れてしまったことを寂しく思い、母を呼び寄せました。父は、末日聖徒と結婚する決意をしたことで、その後の人生にどれほどの影響を及ぼすか、

そのときは知る由もありませんでした。

両親はともに自分の家族を愛していたので、結婚後に住む場所を決めるのは困難でした。兄とわたしが幼いころ、家族はユタ州とアメリカ東部を何度も行き来していました。わたしたちが東部に住んでいたとき、父はわたしたちが末日聖徒の支部に集えるよう、近くの町まで時々車で送ってくれました。しかし、父は集会と一緒に出席しなかったため、





集会在終わるまで車の中で待っていました。

天気の良い日には、教会の集会后に大きな木陰に座り、父はピクニック用のバスケットを車から持って来ました。食事をしながら、母は聖餐会<sup>せいさん</sup>で学んだことを話すようわたしと兄によく勧めました。

その後わたしたちは、母の家族が近くに住む西部に移り住み、教会へはさらに頻繁に行くようになりました。集会后のピクニックはもうなくなりましたが、夕食には食卓を囲んで素晴らしいひとときを過ごしました。日曜日は毎週、教会で学んだことを父に話しました。

兄とわたしはさらに成長すると、父と一緒に教会に出席しないために、どれほど大きなものを失っているか理解するようになりました。もし父と一緒に行こうと望むなら、父は福音を学び、バプテスマを受ける必要があると分かりました。こうして父に福音を伝えるため、たゆまない努力が始まりました。しかし、努力の歳月がその後年を経ていくにつれ、ほんとうに父がバプテスマを受ける日が来るのか疑問に思うことも時々ありました。

わたしが9歳のときに弟が生まれ、父はまた夕食時に初等協会のレッスンをすべて学ぶことになりました。そのころには、父は時々、一緒に教会へ行くようになっていました。宣教師を食事に招待したり、レッスンを聞いたりもしました。しかし、まだバプテスマの決意には至りませんでした。

兄が伝道に召されたとき、わたしたち兄弟で構成する宣教師グループは大きな痛手を被ると思いました。兄はこのように慰めてくれました。「心配しないで。伝道地からも父さんに働きかけるから。」兄は約束を守り、家に届くほとんどの手紙には宣教師であることへの喜びに満ちたメッセージとともに、あの大切な問いかけが記されていました。「父さん、いつバプテスマを受けますか。」しかし、父は何度も繰り返しレッスンを聞いていたにもかかわらず、まだ準備ができていないと感じているようでした。

21歳になったとき、わたしはウルグアイへ伝道に召されました。わたしは毎週家族へ手紙を書き、良い伝道経験を必ず盛り込むようにしました。そして、伝道地で見たと

バプテスマについて記してから、こう尋ねました。「父さん、いつバプテスマを受けますか。」

22歳の誕生日に、母から誕生日のカードが届きました。彼女はこう書いていました。「お父さんは、また宣教師からレッスンを聞いています。そして今回、バプテスマの決意をしたのです！」

その日からというもの、家族から手紙が届く度に、父のバプテスマの知らせを心待ちにしましたが、その知らせは届きませんでした。そんなある日、母から短い手紙が届きました。「お父さんは今回、バプテスマを取りやめました。」それを読み、わたしは落胆しました。何か問題が生じたのでしょうか。それとも、わたしが手紙の中で、何か父の決意を損なうことを書いたのでしょうか。それから数か月間、父のために何度も祈りました。その後わたしは手紙を書き、宣教師と連絡を取り続けるように勧めました。

半年後、わたしに気が動転するようなメッセージが届きました。「今すぐ家に電話しなさい。」驚いたわたしは同僚とともに国際電話サービスのある事務所に駆け込みました。わたしはオペレーターの女性から、回線がつながるまでブースの中で待つように指示されました。

電話が鳴り、わたしが受話器を取ると、母の声がしました。わたしは取り乱しながら「どうしたの?」と尋ねました。

母は興奮した、うれしそうな声でこう答えました。「シーラ、今日お父さんがバプテスマを受けたのよ。今朝起きた途端、こう言ったの。『バプテスマを受けたい。今日受けられるか監督に電話して聞いてくれるかい?』って。そして、監督に電話したら、すべて手配してくださったのよ。」その日の正午、ワードの集会所で兄が儀式を執行了たのです。

母の話聞きながら、恐れは消え、心は感謝と喜びにあふれました。長年の間、働きかけて、待ちわびて、祈り続けた末、ついに家族全員が会員となったのです。□

シーラ・R・ウッドワード姉妹は、アイダホ州アイダホフォールズ中央ステーク、アイダホフォールズ第28ワードの会員です。



# 生ける預言者の言葉

## すべての若人は宣教師に

「この教会のすべての若人は、永遠の福音の教師として、また末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として、世界に出て行くことを、将来の夢とし、望みとし、待ち望んだ経験とする必要があります。皆さんがどこに赴任することになるのかは分かりません。……しかし、皆さんにとって、間違いなく、かけがえのない、すばらしい経験になるはずです。皆さんは主に近く生活し、これまでなかったほど、熱心に祈ることになるでしょう。皆さんは教え、偉大なる善を行います。そのことで、皆さんには、生きているかぎり、自分の生活に祝福がもたらされるのです。

わたしはぜひ皆さんにお願いします。貯金をし、準備をし、末日聖徒イエス・キリスト教会で伝道に出る経験について考え、夢を抱き、祈ってください。」<sup>1</sup>

## 教会の中で結婚する

「わたしたちは教会の中で結婚するよう心がけるべきです。もし教会の中で結婚することができれば、わたしたちの生活はずっと豊かで幸福なものとなります。……夫婦で同じ教えを信じているので、教義やそのたぐいのことで言い争わなくて済みます。」<sup>2</sup>

## 教会に対する反対

「反対は誤解から生まれます。この教会やその目的、歴史、実践している教え、概要などについて、もっと人々に理解してもらえるようになれば、そうした反対は消滅してしまい、異なった様相を呈するようになるものです。今なお反対はあるかもしれません。そ

れでも、そのことで、ノーブーから追い出されたり、雪の中、ミズーリを横断させられたり、あるいはそれに似たようなことをさせられたりというようなことはもうありません。あったとしても、もっと違った種類の反対であり、恐らく、場合によっては、もっと巧妙で、対応に苦慮するような反対だろうと思われま

## 永遠の命の約束

「主はその大いなる憐れみのゆえに、また、わたしたちに対する愛のゆえに、わたしたちが、聖なる神権の権能の下に、死を超えて継続し、なお、死が何ら力を持ち得ない関係に入ることを可能にしてくださいました。政界の偉人であろうと、軍の指導者であろうと、偉大な実業家であろうと、偉大な教育者であろうと、あるいはどれほど偉大な専門家であろうと、そのような約束はできません。彼らは、人として最も高い名誉に浴することはあるかもしれませんが、しかし、死の扉をくぐるとき、人の行く末を左右するような力は持ち得ないのです。」<sup>4</sup>

## 神殿に参入する資格の維持

「神殿推薦状を入手してください。そして、命あるかぎり、神殿推薦状を保持する資格を失わせるようなことを決して考えたり、言ったり、行ったりしないでください。そして、もし神殿推薦状を受けるための条件をすべて満たすような生活をしているとすれば、確かに、皆さんは福音の教えに従って生活し、主が期待されていることを行っていると言うことができますでしょう。」<sup>5</sup>

## 主を認める

「称賛やへつらいの言葉でおだてられて舞い上がらないようにすることは、非常に大切です。特にへつらいの言葉は毒薬です。皆さんが今いる地位にあるのは、主がその計画に従って置いてくださったのだという事実を忘れないようにしてください。皆さんはその計画を理解していません。何か立派なことを成し遂げることがあったら、そこに主の御手を認めてください。そして、称賛や栄光を主に帰して、自分に帰そうなどと頭を悩まさないでください。もしそれができれば、万事うまくいくようになり、人々から愛され、大いに尊敬を受けながら前進することができるようになり、自分の職務の求めに応じてしなければならないことを成し遂げられるようになるでしょう。」<sup>6</sup>

## 自分自身を信じる

「自分自身を信じてください。偉大なことを、立派なことを、そして、価値あることを実践できる自分の能力を信じてください。自分自身の中にある特質を信じてください。自分はほんとうに生ける神の息子娘なのだから神の特質を受け継いでいるのだ、ということに信じてください。皆さんは神聖なものを受け継いでいます。気高く、高尚で、高貴なものを受け継いでいるのです。世の汚れや醜悪なものをはるか下に置き、頭を上げてより高い標準に従って歩んでください。自分自身を信じ、世にあって善を行うことのできる自分の能力を信じ、違いを生み出していくのです。」<sup>7</sup>

## 主が望んでおられること

「主は末日聖徒であるわたしたちにどのようなことを望んでおられるのでしょうか。この教会の会員であるわたしに主は何を望んでおられるのでしょうか。主がわたしに望んでおられることは、日々の生活の中で神に対する愛を示すことです。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、そして力を尽くして主なるあなたの神を愛し、さらに、自分を愛するようにあなたの隣人を愛することなのです(マタイ22:37-39参照)。

末日聖徒の心の中には、神のいかなる息子娘に対しても、辛辣<sup>しんらつ</sup>な思いや不親切な思い、また悪意の入り込む余地はありません。信仰の異なる人々もいるだろうと思います。しかし、わたしたちは、そのような人々に対しても、わたしたちの天の御父の息子娘として大切に接する義務を負っているのです。

主は、わたしたちが心の中でも、そして生活の中でも、主イエス・キリスト、すなわち世の救い主であり贖<sup>あがな</sup>い主である御方に対する深い愛をはぐくんで行くよう望んでおられます。その愛を最も適切に表現する場面は、人々に対して奉仕をするときなのです。

主は、わたしたち一人一人が忠実な教会員であることを望んでおられます。実践<sup>みわざ</sup>するよう求められていることを行い、御業を前進させ、奉仕するよう召された場所で仕え、地上で王国を築き上げることを望んでおられるのです。』<sup>8</sup>

□

## 注

1. 2000年1月30日、シンガポール、集会
2. 2000年1月28日、インドネシア、ジャカルタ、集会
3. 2000年2月25日、『デゼレトニュース』(Deseret News)紙とのインタビュー
4. 1999年7月31日、エクアドル、グアヤキル、集会
5. 1999年3月21日、ブリガム・ヤング大学エルサレムセンター、集会
6. 2000年2月25日、『デゼレトニュース』紙とのインタビュー

7. 2000年1月22日、ハワイ州オアフ、地区大会
8. 2000年1月28日、インドネシア、ジャカルタ、集会



# 主から望まれることを行う

**わ**たしたちは神の息子、娘です。そしてその事実が示唆する事柄は深遠なものです。わたしたち一人一人は「神聖なものを受け継いでい[る]」ので、「自分自身を信じ、世にあって善を行うことのできる自分の能力を信じ」「より高い標準に従って歩む力があるとゴードン・B・ヒンクレー大管長は説明しています。もし天父の期待に添った生活をするならば、天父は約束を果たしてくださると知ること、わたしたちの生活を活力に満ちたものとすることができます(教義と聖約82:10参照)。それでは、天父はわたしたちに何を期待なさっているのでしょうか。



ヒンクレー大管長は次のように説明しています。「主は、わたしたちが心の中でも、そして生活の中でも、主イエス・キリスト、すなわち世の救い主であり贖い主である御方に対する深い愛をはぐくんでいくよう望んでおられます。その愛を最も適切に表現する場面は、人々に対して奉仕をするときなのです。」「(生ける預言者の言葉』『リアホナ』2001年2月号、28-29)これから紹介する話からも明らかなように、自分自身の生活と同様に人々の生活にも変化をもたらそうと努めるときに、救い主に対するわたしたちの愛は、静かで、目立たぬ形で示されることがよくあります。

## モルモン書に見いだされるまで クワメ・オバレ

**何**年も前のことですが、わたしはガーナのクマーシで、ある本屋に立ち寄ることがありました。本を手に取っては元に戻しながら、本棚を次々と巡り歩いていたときに、ある本が目にとまりました。水色の表紙が擦れて色あせたその本には、モルモン書というタイトルが付いていました。わたしはその本を手に取り、ほこりをはらい、数行読んでみました。読んで意味が分からず、聖書との関連も理解できませんでした。しかしその本を手にしたとき、それが聖典であると感じたのです。けれ

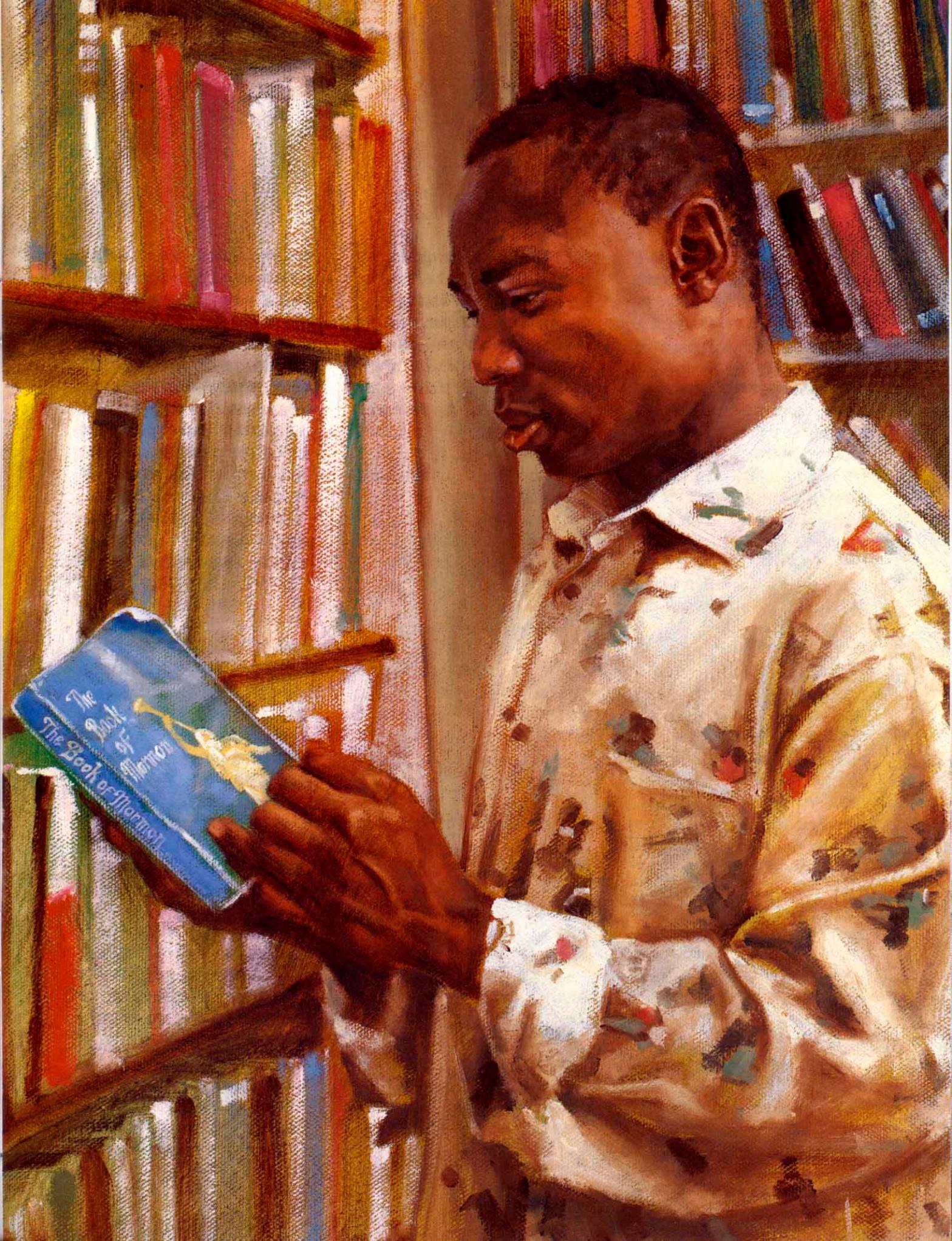
どもこれまで手に取った本と同様に、その本も本棚に戻してしまい、さらに本を探しました。

数分後、わたしは先ほどの場所に戻っていました。またあの青い本が目にとまりました。今度は目次を見ると、耳慣れない風変わりな名前が多く記されていました。「もしこれが聖典であるとしたら、どうしてこの内容が聖書に載っていないのだろうか」と思いました。何節か読むうとしてみましたが、やはり理解できませんでした。今度もその本

を本棚に戻しました。

本を次々と探しましたが、3度あのモルモン書に巡り会いました。本を開くと、そこはモーサヤという章でした。「この人は聖書に登場していただろうか」と思い巡らしました。わたしの聖文の知識は聖書に始まり、聖書に終わっていたのです。わたしはこの青い本に戸惑いました。まるで心の中で戦いが起きて

**本を手に取っては元に戻しながら、本棚を次々と巡り歩いていたときに、ある本が目にとまりました。水色の表紙が擦れて色あせたその本には、モルモン書というタイトルが付いていました。**



いるかのように感じました。この本はそれまで見たこともありませんでしたが、すでに知っているように感じたのです。その直後、わたしはその本の代金を支払っていました。

しかしその後何年もの間、わたしはモルモン書を自宅の本棚に置いたまま、読むことはありませんでした。何度か読もうとはしたのですが、単になじめなかったのです。

そうこうするうちに、わたしはガーナからドイツに移り住みました。ドイツに着くと、わたしは礼拝する場所を探し始めました。数々の教会に出席しましたが、心が落ち着くことはありませんでした。その後ついに祈りと断食を始め、礼拝する場所について導きを求めるようになりました。1か月たち、ようやくその答えを受けたのです。

わたしの住んでいたアパートには、多くの外国人が住み、出身も様々でした。その中であって、友人を時々訪ねて来るある夫婦は、ほかの人々と異なっていました。裕福ではありませんでしたが、二人はわたしたちをいろいろと面倒見てくれました。彼らは友人を教会へ一緒に行こうと誘ったのですが、友人はわたしにも行かないかと誘ってくれました。わたしは「どの教会に行くのですか」と尋ねました。

友人は、末日聖徒イエス・キリスト教会に行くことになるかと答えました。わたしはキリストについて教えている教会であるかぎり、一緒に行ってもいいと告げました。

当日、わたしたちは教会に行きました。集っていた大勢の人々を見渡しましたが、見知らぬ人たちがばかりでした。まず感じたのは、温かさで、自分もこの人たちの仲間だという気持ちでした。聖餐せいさんの儀式を行う若い男性たちを見て、とても好感が持てました。このような姿

をほかでは見たことがありませんでした。

聖餐会の後、初めての訪問者として福音の原則のクラスに出席するよう招かれました。レッスンのテーマは永遠に続く家族についてでした。そこで聞いた事柄に感動を覚えました。クラスはあっという間に終わってしまいました。教師に次週も同じテーマで教えてくれるのかどうか尋ねると、同じテーマだということでした。わたしは翌週の日曜日にもまた来ることにしました。

次の集会は神権会でした。レッスンのテーマは家族の財政管理についてでした。それを聞いたわたしは、「何という教会だろう。福音と家庭管理を一緒にしてしまうとは」と思いました。

神権会の後、教会に連れて来てくれた夫婦は、わたしが関心を抱いていることに気づき、回復された福音について学ぶよう誘いました。わたしは「ええ、ぜひ」と答えました。そのとき、集会で感じた御霊みたまに感銘しながら、古く、傷んだモルモン書を買ったあの店での経験を思い出しました。あの店での出来事は、当初はささいなものと思い、その後長い間忘れていました。しかし今になってそれが大きな意味を持つようになったのです。

レッスンが始まり、それは毎日のように行われました。この夫婦宣教師から福音について学ぶのは喜びでした。夫妻はわたしに兄弟としてのみならず、息子としても接してくれました。レッスンが終わり、わたしはバプテスマを受けました。

かかわりを持ちながらも別々に起きたこの二つの出来事について、深く思い返すことがよくあります。店に入り、聞いたこともない題名の古い本を見つけ、理解できない数行を読み、それでその本を買う行動に出るというのは、どういう理

由によるものなのでしょうか。どのような意義を持つのでしょうか。理由がわからない場合でも、理屈で説明できないことの多くは、主にとっては大きな意味を持つものであるとわたしは信じています。主は道を備えてくださり、わたしたちが主の言葉を受け入れる備えができたとき、わたしたちを正しい人々へ、また正しい状況へと導いてくださるのです。わたしたちが神を探し求めるずっと前から、往々にして神はわたしたちを探してくださっているのです。

クワメ・オパレはドイツ・ミュンヘンステーク、ミュンヘン第4ワードの会員です。

## 慈愛、そして一つ目のケーキ ニッキー・O・ネルソン

**夫**が突然亡くなってから数週間たったときのことです。わたしは疲れ果て、落胆した気持ちを引かずして仕事から帰宅しました。玄関で出迎えてくれた息子たちは、わたしの気持ちが切り替わる情報を二つ教えてくれました。水がまだ出ないこと(前の晩、突然水が出なくなりました)、そして、カプスカウトの父親と子どものケーキコンテストと競売が2時間後に始まるため、ケーキを作らなくてはならない、ということでした。

台所に入ると、汚れた皿が驚くほど山積みになっていました。ケーキの材料を混ぜたりするような場所はどこにあるというのでしょうか。それに水の問題も解決しなくてはなりません。

簡単にできるケーキのレシピを見つけ、その作り方を弟に教えるよう、嫌がる息子に任せました。そして服を着替え、ランチを見つけようと納屋の中をくまなく捜し回りました。それから井戸の中に

潜り込みました。主人がポンプを直すところを幾度か見てきたので、自分もきっと数分で直せると思っていました。

接合部分に問題はないようでした。スイッチボックスの虫を追い払い、レンチでたたいてみました。それでもだめです。パイプをけてみましたが、それでも直りません。呼び水をするための栓を緩めようとしたとき、指をけがしてしまいました。それでもだめです。何をやってもうまくいきません。

井戸の中で思いつくままあらゆる方法を試しているうちに、1時間は過ぎてしまったようです。もうお手上げでした。「一体わたしはなぜこんな穴の中で、どうしようもないパイプをたたいたりしているのだろう。ほんとは手入れの行き届いたきれいな台所で、母親らしいことをしているはずなのに。なぜ子どもたちは、父親なしで生きていかななくてはならないのだろう。父親のいない家族がカブスカウトのケーキコンテストに出てどうするのだろうか。これは不公平だと思う。」

水の問題も解決できず、わたしはあきらめて集会に行きました。もう集会は始まっていました。ホールの後方のいすに腰かけ、息子たちは自分たちで作った見た目の寂しい小じんまりとしたケーキを前のテーブルに持って行きました。カブスカウトの帽子の形をしたケーキや、木や鳥が飾られているケーキ、国旗を飾ったケーキもありました。そこにわたしたちの作ったケーキが加わったのです。息子たちは一つ目のようなケーキを作りました。中心は青と紫のクリームでできていて、充血しているかのように見せるために、曲がりくねった赤い線まで描かれていました。

暗がりの中で座っていたわたしは、惨めに思えてきました。いらだちと情けない思いをこらえ切れずに涙を流してし

まい、わたしは部屋を擦り抜けて、トイレに駆け込みました。

扶助協会のある姉妹がその様子を見ていました。わたしの後を追って来てくれたので、わたしは彼女に事の次第を打ち明けました。彼女はわたしを抱き寄せ、信頼で

きる配管工を何人か教えてくれました。配管工ですって。何と画期的な解決法

**ケーキの競売が始まりました。息子たちはにやにやしながら、グロテスクな一つ目のケーキを持ってステージに上がりました。**



でしょう。目からうろこが落ちる思いでした。農家では、水が出なくなれば夫に言って、夫はポンプをほんの少し触って、それで万事うまくいくというのが常なのです。配管工を呼ぶなどという考えは想像もつきませんでした。わたしの判断が、夫が行ったと思われる事柄とは異なっている、恐らくそれでかまわないと気づきました。これで何とか事態は好転するのかもしれませんが。

集会の締めくくりとして、ケーキの競売が始まりました。息子たちはにやにやしながら、グロテスクな一つ目のケーキを持ってステージに上がりました。優しいおばあさんが、そのケーキに相当な金額を払ってくれることになりました。おばあさんがステージに上がり、そのケーキを受け取ったとき、そのケーキが何をイメージしたものかはっきりとは分からないものの、色が気に入ったと言ってくれました。息子たちはただほほえみ何も言わなかったの、わたしは胸をなで下ろしました。

この二人の女性は慈愛について知っていました。さりげない方法でしたが、二人とも必要とされることを目にし、自発的に、そして意識してその必要を満たしてくれたのです。彼女たちは恐らく、そんなことはささいなことと言えるでしょう。それどころかもう記憶にもないかもしれませんが、わたしにとっては、ささいなことではありませんでした。

イエス・キリストはわたしたちに規範を示してくださいました。そして慈愛を教えてくださいました。主は御自分が愛された人々の必要とすることに敏感な御方でした。そしてわたしたちすべてを愛してくださいています。そしてわたしたちも同様に、互いに対してよく心を砕くよう、そして互いが愛し、慰め、励まし合うようにと教えられました。それがこの地上にいる目的の一つである

と、わたしは信じています。

その日わたしは次のような教訓を学びました。それは、慈愛を示す際に、ささいなことでも大きな変化をもたらすこともあるということです。

ニッキー・O・ネルソンは現在オーストラリア・ブリスベン伝道部で伝道しています。

## 慰めを感じた理由 アラン・L・オルセン

1980年、フィリピン・セブ伝道部で伝道していたときのことで、わたしはオルモックという町に転任になりました。その地方では普段、着実な成長が見られていたのですが、わたしが赴任する前の数か月はバプテスマがほとんどないという状態が続いていました。

10月28日にオルモックに到着したわたしは、同僚のアレクサンダー長老と会いました。最初の数週間はほとんど進展が見られませんでした。レッスンを教える約束はほとんどなく、教える人を紹介されることは皆無に等しい状況だったのです。長い時間伝道し、教える人を見いだせるよう祈ったのにもかかわらず、ほとんど成果は見られません。導きを得るために、またわたしたちが教えるために主がだれか備えてくださっているという確信を得るために祈ったのを、わたしは今でも覚えています。

11月15日、アレクサンダー長老とわたしはオルモック川に浮かぶ小さな島にあるバリオ・イスラ・ベルデ地区を戸別訪問していました。その地区に行くためには、飛び石を使って浅い川を23メートル余りも渡らなくてはなりません。わたしたちにとって飛び石で川を渡るのは容易ではありませんでしたが、地元の人々は難なく渡っていました。

その地区で伝道しているとき、わたしたちはベトロニコ・イゴニアとアンドレア・イゴニア夫妻、そして孫のアラン・スエト・スガヒドに会いました。家庭の夕べを開くように勧めると、彼らはそれを受け入れてくれました。そしてその家庭の夕べはすばらしい友情の始まりとなりました。ゲームをした後、わたしたちは福音のメッセージを伝え、自分たちの証を述べました。

この家族への訪問はそれから2週間続きました。彼らの顔が輝いていくのを見るのは、とてもうれしいことでした。11月の終わりに、3人とも翌月にバプテスマを受ける決心をしました。

12月2日にイゴニア家でレッスンをした経験を、わたしは一生忘れることがないでしょう。ワードの伝道主任であるロア兄弟はわたしたちとともに、イゴニア家で開かれる近所の人を集めての集会に足を運びました。近隣に住む30人以上の人がイゴニア家族に誘われて、最初のレッスンを受けるために集まったのです。わたしたちが証を述べたとき、御霊を非常に強く受けたため、そこに集った人は皆心に感じるものがあつたと信じています。

一人一人が温かく、平安な気持ちを感じるの、聖霊がその場にともにいてくださるからであると説明しました。さらに御霊に促され、そこに集った一人一人に対し、引き続き教会について学ぼう、そしてバプテスマを受ける決心をするようにと伝えました。30人全員がその勧めを受け入れたのです。

イゴニア兄弟姉妹とその孫、そしてほかに7人が12月にバプテスマを受けました。オルモックでの伝道は、このすばらしい家族の信仰がきっかけとなり、再び大きな成果を生むようになりました。それから間もなく、わたしはオルモックから転任してしまいました。オルモ

ックでの伝道はわずか6週間でしたが、その期間はこれまでの人生で最も充実した経験に数えられます。このような大切な事柄のために、これほど熱心に働いたことはありませんでした。そして主をこれほど近く感じたこともありませんでした。オルモックで伝道した6週間、わたしたちは9人に教え、バプテスマを施す機会を主から与えられ、ほか30人はバプテスマへ向けて備えているところでした。

それから11年を経た1991年11月、仕事場で座っていたわたしは突如、平安と愛の気持ちを強く感じました。そしてだれかが亡くなったような気がしましたが、

**家庭のタベを開くように勤めると、彼らはそれを受け入れました。その家庭のタベはすばらしい友情の始まりとなりました。**

それがだれなのかは分かりませんでした。家にいた妻のスーザンに電話をかけて、家族に異変がないか確認しました。何も変わらないという答えに安心しましたが、まだ同じ気持ちを感じていました。

その夜、わたしは伝道中の日記を手取るようにという気持ちを感じました。オルモックでの経験について記したページを開き、読んでいます。御霊を強く感じ、涙があふれてきました。わたしが会ったすばらしい人々が福音を信じていることについて思いを巡らしました。この強く感じる慰めの気持ちはオルモックでの経験とかかわりがあるのでしょうか。

その月の下旬になって、オルモックを襲った壊滅的な台風についての記事を読みました。教会員のうち

22人が洪水で亡くなりました。その中にはイゴニア兄弟姉妹と孫のアランもいました。オルモックで伝道していたときに知り合ったほかの人々の名前もありました。再び懐かしい温かさと思慰め主の平安が心に宿りました。そしてどうして以前にあのような気持ちを感じたのかが分かったのです。

彼らの死を悲しむ一方、彼らが天父のもとへ戻ったとわたしは知っています。彼らはそこでも、この地上で始めた務めを引き続き行っていることでしょう。□

アラン・L・オルセンはカリフォルニア州フリーモントステーキ・センタービルワードの会員です。



夫に先立たれ、年老いたタレジア・マングルズはドイツ北部のアパートに一人で暮らしていました。ある晩、ドアをノックする音を聞き、出てみると二人の青年が立っ

教えに教え

# 前世



ていました。彼らの仲間が数年前に置いていった本がまだ手もとにあることを思い出し、タレジアは二人を招き入れ、その本を取りに行きました。本を返そうとすると、二人はにっこり笑い、「この本は別の教会のもので」と言いつつ、受け取ろうとしません。「わたしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会の者です」と二人は言い、大切なメッセージを伝えてもよいかどうか、タレジアに尋ねました。少しばかり孤独を感じていたうえ、彼らがとても感じのよい若者だったので、タレジアは二人の話聞くことにしました。

その日、二人は預言者ジョセフ・スミスについて教えました。けれど彼らのメッセージを聞いて、タレジアは混乱してしまいました。示現、金版、そして天使、すべてが奇妙に思えました。彼らがまた訪問してもよいかと尋ねたとき、タレジアはもう少しで断るところでした。でも彼らにもう一度だけチャンスを上げることにしたのです。

2度目に訪れたとき、青年たちは人生の目的と神の救いの計画について教え始めました。タレジアは興味を覚えました。次に青年たちは、彼女が今までに一度も聞いたことのない話を始めました。それは前世についての話でした。前世ではわたしたちは皆、神とともに住んでいたということです。タレジアはまるで自分の魂に光が降り注ぐように感じ

ました。「この教義は真実だ。」そう実感しました。それまで通っていた教会では解明されずにいた、たくさんの疑問が、この教義によって説明づけられたのです。それ以来、宣教師たちの教えることはすべて、完全に理解できるようになりました。宣教師たちからバプテスマを受けるように勧められたとき、彼女は喜んで同意しました。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老はこのように勧告しました。「前世についての教義を学ぶことなく、人生の意義を知ることはできません。

この世への誕生が人生の始まりであるという考えは不合理です。それを信じるかぎり、人生の意義について説明することはできません。

死をもって人生が終わるという考えは、ばかげています。それを信じる人は、人生に立ち向かうことはできません。

前世についての教義を理解すれば、すべては調和して意味を成すようになります。」「(『人生の謎』『聖徒の道』1984年1月号、31)

前世での生活を理解せずに、天父とわたしたちとの関係を正しく理解することはできません。また、この地上での人生の目的を完全に理解することもできません。この世での人生がすべての始まりであり終わりであるという考え方は、大切な部分をなくしてしまったパズルのように、決して完成されることがあ

りません。また、天におけるわたしたちの受け継ぎや神から与えられた神聖な使命は、謎のまま残されます。パッカー長老はこうも語っています。「前世に関するこの教義は、昔のキリスト教徒にも知られていました。この教義は約500年の間教えられていましたが、ある聖職者によって異端の教えとして拒絶されました。このようにして背教という暗黒時代に入ってしまったのです。……[この]教義を一度否定してしまうと、人生の謎を解くことができなくなりました。彼らはまるで、短かすぎる糸にたくさんの真珠を通そうとしている人のようでした。真珠をすべてつなげることは、絶対にできないのです。」(『聖徒の道』1984年1月号, 29)

わたしたちには前世での生活があり、試練に遭い、試されるためにこの地上に来ていることを理解するとき、救い主の必要性がより明確になります。不平等、病気、肉体的な障害といった困難な問題に取り組むときにも、前世の生活に焦点を当てることで、困難が軽減されるようになります。

前世について、まだ主が明らかにされていない部分がたくさんあります。例えば、前世での生活

がどのようなものであったかをわたしたちは知りません。そこで何をしていたのか、規則や生活条件がどのようなものだったのか、どのぐらいの期間天父と一緒にそこに住んでいたのか、また天上の戦いがどのようなものであったのかなどです。しかしながら、明らかにされている真実は、わたしたちが地上での目的を達成するうえで十分なものです。「前世について重要な事実が明らかにされました」とパッカー長老は述べています。「これらは概略的なものですが、人生の謎に答えを与えています。」(『聖徒の道』1984年1月号, 29)明らかにされた重要な事実のいくつかを以下に示します。

● わたしたちは神の霊的な子どもです。ですから神のようになる可能性を持っています(ローマ8:16-17; 教義と聖約93:33-34参照)。

● わたしたちは天上の会議に出席し、天父の計画を示され、後にわたしたちの救い主、贖い主として地上に来ることを申し出られたイエ

ス・キリストに従うことを選びました(アブラハム3:24-28参照)。

● サタンは反乱を起こし、「天の衆群の3分の1」とともに、天から追放されました。彼らは現在サタンの目的の下に、わたしたちの魂を滅ぼすために暗躍しています(教義と聖約29:36-39参照)。

● わたしたちはこの地上に来るとき、前世での記憶を失いました。しかし、克服しなければならぬ弱さと同時に、強さや才能を与えられています(エテル12:27; 教義と聖約104:17; 138:55-56; アブラハム3:23参照)。

● 現世での人生は、始まりでも終わりでもありませんが、わたしたちの成長の過程において、試しを受ける時期であり、非常に重要な時期でもあります。この試しの時期をどう過ごすかによって、わたしたちの永遠の将来が決まるのです(アブラハム3:25-26参照)。□



父なる神とイエス・キリストが訪れられたことを息子のジョセフ・スミス・ジュニアから  
最初に打ち明けられたのはジョセフとルーシー・マック・スミスでした。  
その後のスミス夫妻は福音のためにすべてを犠牲にしました。

# 最初に信じた 忠実な人たち

ドナルド・L・エンダース

絵/ポール・マン

**18**36年1月、預言者ジョセフ・スミスはカートランド神殿において、エンダウメントに関連する儀式を執行していたときに、日の栄えの王国に関する示現を見ました。その「栄光」を表現する言葉を探していた預言者は、「回転している炎」のようなその門、その「美しい街路」、そして「輝く神の御座」に座しておられる御父と御子を「たぐいぬ美しさ」と描写しました(教義と聖約137:1-4)。預言者は兄のアルビンと「わたしの父と母」をも見て、大きな喜びを得ました(教義と聖約137:5)。

アルビンは13年前に亡くなっていました。徳高い生涯を送り、ジョセフの使命を支援し、そして戒めに従順であったことから、彼が昇栄することは説明がつかしました。しかし、ジョセフの両親はまだ生きていました。ジョセフはなぜ昇栄した両親を見ることができたのでしょうか。

続いて説明された主の言葉にその答えを見いだすことができます。「主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」(教義と聖約137:9)

回復された福音を最初に信じた忠実な人であるジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスが示したどのような行いと望みが、日の栄えの栄光を求める今日の末日聖徒にとって励ましとなるのでしょうか。簡単に言えば、彼らは真理を探し求め、真理を見いだして、その後は真理をしっかりとつかんで離れませんでした(マタイ7:8参照)。

二人が福音の真理を探し求めたのはニューイングランドでした。そしてニューヨークで真理を見いだしました。二人はオハイオとミズーリとイリノイで福音に忠実に従って生活し、犠牲や貧困、肉体的な苦痛、世の人々の軽蔑、愛する人々の死がもたらす悲しみによってもたじろぐことはありませんでした。人生のあらゆる場面で、二人は家族に福音の原則を熱心に教え、無私の奉仕を行い、神が慈

しみ深い御方であられることを常に証しました。

## 福音を探し求める

幼少期のジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マックはいずれも、ニューイングランドの信心深く勤勉な家庭で育てられました。ジョセフはマサチューセッツ州トップスフィールドに住むアサエル・スミスとメアリー・デューティー・スミスの間に生まれた11人の子どもの第三子として1771年に生まれました。ルーシーはニューハンプシャー州のギルサムに住むソロモン・マックとリディア・ゲイツ・マックの間に生まれた8人の子どもの末っ子として1775年に生まれました。これらの家族の両親とともに、神に対する義務、熱心に働くこと、家族の一致、読み書き、礼儀を重んじる社会にふさわしく振る舞うことを子どもたちに教えていました。

周囲の多くの家庭と同じように、両家とも聖書と個人の祈りをきわめて大切にする家庭でしたが、キリスト教の主流は聖書から離れてしまっていると感じていました。このため、彼らはキリストの教会が生まれ変わることを待ち望んでいました。ジョセフ・シニアの父アサエルは自分の子孫の中から末日の預言者が誕生すると信じていました。ルーシーは少女時代に母親の優しさと、長期にわたって不治の病に苦しみながらも不屈の信仰を表した二人の姉の模範から大きな影響を受けていました。若い女性時代のルーシーは、神と心をつなぐような「心の変化」を求めていました。

**ジョセフ・シニアは妻や子どもたちより一足先にニューヨーク州バルマイラへ行っていましたが、家族が再び一緒に暮らせるようになったとき、子どもたちは父親を取り囲んで、父親の顔のところかまわず涙と唇を押しつけました。**



ルーシーは19歳のときに、商用で出かける兄のスティーブンについてバーモント州タンブリッジへ行き、そこでジョセフに出会いました。そのときジョセフは23歳でした。1年間の友情がやがて愛に変わって、二人は1796年1月24日に結婚しました。前途洋々たる結婚生活でした。二人は健康で、親戚や友人に囲まれ、貯金することが可能な生活を送っていました。ニューイングランドの文化では、そのように繁栄し、社会から受け入れられている境遇は神の恵みのしるしであると考えられていました。しかし、ジョセフとルーシーはバーモント州とニューハンプシャー州近辺で生活した20年の間に、人生がそれほど単純なものではないという厳しくも大切な教訓を学びました。

1816年にニューヨーク州パルマイラへ引っ越してから、二人はありとあらゆる試練を受けました。10人の子どもたちのうち、二人が亡くなりました。全国的な経済不況と仕事仲間の裏切りによってきわめて貧しい状態に追いやられました。天候不良により3年連続して作物の収穫がありませんでした。ルーシーは肺結核を患って死の手前まで行きました。彼女の二人の姉はこの病気によって命を落としています。発疹チフスの流行はジョセフとルーシーの子ども全員に襲いかかりました。両親がソフロニアのベッドの横にひざまずいて「悲しみと嘆願」により心を注ぎ出さなかったとしたら、幼い彼女はきっと息絶えていたことでしょう。そして息子のジョセフは7歳か8歳のころ、骨髄炎を患いました。当時は手術によって患部から下を切り落とす以外にどうすることもできないと考えられていた難病でした。度重なる不運とともに家族の名声も危機に瀕してしまっていました。援助しなければならぬことを嫌った町の人々は、スミス家にバーモントの村を出て行くよう求めました。

それは霊的な鍛錬の時期でもありました。ルーシーは肺結核のために死を宣告されたとき、命のあるかぎり神に仕えること、「正しい方法で神に仕えることのできる宗教」を探し求めること、それが「祈りと信仰によって天から与えられる」宗教であったとしても、そうすることを聖約しました。彼女は癒されました。それから20年間、その宗教を探し求めました。けれども自分の息子がその宗教を教えてくれるとは考えていませんでした。「何日も、何か月も、何年も」彼女はあきらめずに「神の御心にかなう隠れた宝を……示してくださるように……神に願い求め続けました。」ジョセフ・シニアは既存の宗教に対して不信感を抱いていたため、様々な教会の中から正しい教会を見つけようとし

ていた妻と行動を共にしませんでした。かといって夫婦仲が険悪になったわけではありませんでした。ルーシーは慰めを与えられるよう熱心に祈り続けました。そして、正しい教会が示されるときにジョセフ・シニアがそれを受け入れる夢を見て、慰めを得たのでした。

ルーシーはこのように記しています。「健康と繁栄を手にしていたときよりも、病気と苦痛と苦難にがんじがらめになっていたときの方が、わたしたちの生活は神の手によって守られていることを強く感じました。」二人は負債のある者を赦し、自分たちの負債を返済し、そして経済状態の改善を求めてニューヨーク州西部へ引っ越しました。

ジョセフ・シニアは妻や子どもたちよりも一足先にパルマイラへ行っていました。家族が到着したときに家に残っていたお金は、数セントしかありませんでした。けれども、家族が到着したときに彼らが持っていた二つのすばらしい特質が明らかにされています。第1は、再び家族がそろったことについて、喜びをあらわにしたことです。ルーシーは「優しい夫であり父親であるジョセフの保護と愛情に、わたしと子どもたちがすべてをゆだね」、子どもたちが「父親を取り囲んで、首に抱きつき、父親の顔のところかまわず涙と唇を押しつけ、子どもたちも同じように父親からされる姿を」見たときに喜びを感じたことを記録しています。第2は、家族の問題を解決するために全員で取り組んだことです。ルーシーはこのように話しています。「わたしたちは全員で腰を下ろして、どの道を選び、どのように仕事を進めるのがいちばん良いかについてじっくりと話し合ったのです。」ジョセフ・シニア、アルビン、ハイラムは土地の代金を支払うために働くことにしました。家を手入れし、食料を手に入れる責任を引き受けたルーシーは、ソフロニアと年下の子どもたちの助けを借りて家の中の仕事を切り盛りし、またルーシーは、模様を描いた油布を売りました。また、焼き菓子やルーツビアを作り、息子のジョセフが手作りの手押し車に載せて村へ売りに行きました。

## 福音を見いだす

家族が努力を結集させたことによって、物質的な環境は大きく改善されました。「よそ者として、友人も家も働き口もなく」パルマイラにやって来てから2年後に、「わたしたちは、自分たちの土地で粗末ながらも、きちんとした居心地のよい家を自らの手で建て、落ち着いた生活を送ることができるようになりました」とルーシーは記しています。



**スミス家では問題を全員で話し合いました。そして、全員一致によって到達した結論は、家族一人一人が問題解決のために重要な役割を果たすことを意味していました。**

ルーシーの飽くなき霊的な真理の探求は実を結ぼうとしていました。1820年の春、14歳の息子ジョセフは最初の示現を経験しました。そこでジョセフは御父と御子を目にし、自身の罪が赦され、いずれの教会にも加わらないようにと命じられ、完全な福音が間もなく回復されると告げられました。3年後、天使モロナイはジョセフが「完全な永遠の福音」の収められている古代の書物を世にもたらすよう主から選ばれたことを告げました(ジョセフ・スミス—歴史1:34)。

モロナイはまた、訪れを受けたことについて父親に話すようジョセフに指示しました。ジョセフはそのとおりにしました。父親はすべてを信じました。こうしてジョセフは兄弟姉妹を含む家族からの支持を受けたのでした。「神は心に満足を与えてくれる何かを明らかにしようとしておられたことを確信しました」とルーシーは書いています。「わたしたちはそのことを心の底から喜びました。」

一日の仕事を終えた家族全員が火を囲んで、若きジョ

セフが話すモルモン書からの物語を熱心に聞き入った思い出を彼女はつづりました。「心地よい一体感と幸福感が家全体にあふれました。わたしたちを包んでいた平安と静寂をかき乱すような争いや不一致はどこにもありませんでした。」世はむなしなものしか与えることができませんが、この宝は永遠に続くことをルーシーとジョセフ・シニアは実感していました。

この知識は喜びをもたらしましたが、1823年9月21日から22日にかけてのモロナイの最初の訪れから、1830年4月6日に教会が正式に組織されるまでの7年間は、ジョセフとルーシーにとって厳しい試練の時となりました。彼らはニューヨーク州マンチェスターの森林地帯に土地を買うことにしました。土地を切り開き、丸太造りの家と小屋、そして納屋を建て、果樹園を作り、ニューイングランド風の大きな木造家屋を建て始めました。1830年までに彼らの農場は町の中でもすばらしい農場の一つに数えられ、「きちんと整備されている」ことで有名になるほどでした。

アルピンが突然亡くなったときに家族は大きな打撃を受けました。天使モロナイの訪れからわずか6週間後のことでした。「家族の幸福は一瞬にして吹き飛んでしまいました。」ジョセフとルーシーそれに子どもたちは「しばらくの間……悲しみに打ちひしがれていました。」この悲しみに暮れているさなかに、家族は農場の所有権を手放さなくてはな

らなくなったのでした。アルビンは支払いが最後の1回を残すまで「長い間働き続けて、病に倒れ、疲れ切って」この世を去りました。木造家屋の建築は始まったばかりでした。第一土地所有権者が死亡したときに、理解の食い違いが生じました。家屋を最終的に仕上げるために雇っていた大工が、偽りの主張によって権利書を手にしてしまったのです。そのような紛争のさなかにクエーカー教徒の紳士が救済に乗り出してきて、土地を購入し、彼らの息子のサミュエルがその紳士の下で働くことを条件に、4年間その土地と家に住み続けることを許してくれました。

それはルーシーにとって痛恨の思い出となりました。ルーシーとジョセフ・シニアが安らかな老後の生活を過ごせるようにと愛するアルビンが準備した家を失うことになったからでした。「わたしはすっかり参って、力を失い、いすに座って呆然としていました」と記しています。彼女はハイラムにこう尋ねました。「これは一体どういうことなのかしら。……10年間もかけて築き上げてきたものが一瞬のうちに取り上げられるなんてことが……どうしてこのようなことが起きるのかしら。」彼女がそのような気持ちになるのも無理からぬことでした。しかし、3年後にいよいよ家を明け渡さなければならなくなると、ルーシーは当時下宿していたオリバー・カウドリにこう言いました。「自分の幸せのためにと何年もの間苦勞して築いてきたものはこれで見納めにします。……わたしはこれからキリストと救いのためにそのすべてを捨て去ることにします。不平や涙なしにそうできるよう神様にお祈りします。……今後、過去のことは一切振り返りません。」

ルーシーは夫の気持ちについても代弁しました。彼らが残してきたのは安らぎをもたらす家だけではありませんでした。ジョセフが霊的な経験をしたことにより、彼らに対する敵意も日増しに大きくなってきました。かつての隣人や友人はほとんどが彼らを避けるようになり、一部の人はあからさまに偽りの話を広めました。ジョセフとルーシーを利用して、財産を荒らし回り、卑劣な訴訟を起こす者もいました。

しかし、ジョセフとルーシーが人々から受けていた信頼が、敵意や復讐心の的となることはありませんでした。「ジョセフが神からいっそう完全な教えを受け、守られるように、わたしたちは以前にも増して熱心に祈りました」とルーシーは書いています。ジョセフとルーシーは、ジョセフ・ジュニアの召しについて最初に知らされ、息子の召し

を受け入れ、モルモン書の最初の116ページが失われたときに息子とともに悲しみ、金版の保管を手助けし、三人の証人の証<sup>あかし</sup>を聞き、教会の設立直後にバプテスマを受けた人々に加えられました。ジョセフ・シニアと二人の息子ハイラムとサミュエルは八人の証人の中に数えられました。

ルーシーにとって喜びを感じながらも、「わたしがほんとうに、天の神の預言者の母親であり、偉大な業に携わる誉れ高い器の母親である」ことを実感して、圧倒される思いも味わっていました。もう一つの忘れられない瞬間は、預言者である息子がジョセフ・シニアのバプテスマの直後に、父親を抱き締めて、「神を賛美します。イエス・キリストの真の教会に加わる自分の父親がバプテスマを受けるのを確かに見ることができました」と叫んだときのことでした。

## 福音に従って生活する

青年期に始まったジョセフとルーシーの真実の宗教の探求は、結婚後34年を経て実現されました。その後ジョセフ・シニアがこの世を去る1840年までの10年間、二人は、心を尽くして神に仕えるならば、終わりの日に神の前に罪のない状態で立てることを確信して、目の前に示された道を踏み外すことなく歩き続けました(教義と聖約4:2参照)。

ジョセフとルーシーはその後自分の家を持つことはありませんでした。カートランドではジョセフ・ジュニアのために用意された町外れの農場で生活しました。彼らは農場の小屋で寝泊まりし、食事を取り、カートランドに集って来た大勢の人々に福音を説き、「一心不乱に働きました。」ミズーリでは、預言者ジョセフは、両親と、結婚した姉妹たちがファーウェストで旅館を切り盛りするように手配しました。ノーブーでは、家族は不治の病に苦しむジョセフ・シニアとともにジョセフ・ジュニアの家の近くに建てられた小さな家で生活しました。このような窮乏を強いられた環境に置かれていたにもかかわらず、彼らは互いに重荷を負い合い、福音の証人として立つというバプテスマの聖約を守り通したのでした(モーサヤ18:8-9参照)。

ルーシーは看護の技術にたけていました。そしてジョセフは看護に当たる妻を助けました。バルマイラで近所に住んでいたある人は「病気になったときに、最も近所に住んでほしい家族です。わたしの父が亡くなったとき、ほとんど四六時中わたしの家にいてくれました」と言って彼らを称賛しています。ファーウェストで、ルーシーは「暴徒



ルーシーは最初、家を失ったことに落胆しましたが、自分の信仰の中から力を取り戻しました。「わたしはこれからキリストと救いのためにすべてを捨て去ることにします。……今後、過去のことは一切振り返りません」と言いました。

からの攻撃を受けている間……20人から30人の病人」を喜んで看護しました。聖徒がノーブーに到着して定住を始めたとき、「大勢の子どもたちが壊血病で次々と命を落として」いきました。そのとき、預言者ジョセフとハイラムは「愛する母親を病人のために働き、看護するために任命しました。」彼女は「何か月もの間、貧しく、病に冒された聖徒たちの間で過ごしました。」近所に住んでいたある青年はルーシーを「助けを必要とする人々をいつも助けている、最もすばらしい女性の一人」と語りました。

ジョセフとルーシーは持ち物を快く分かち合う人でした。教会が組織される以前に、彼らは二人の老人と一人の孤児の少年を家に住まわせていました。カートランドでは新婚の夫婦が数か月間、家に同居していました。カートランド、ミズーリ、ノーブーでは、家中のベッドを来客に与えて、ジョセフとルーシーは1枚の毛布にくるまって床に寝ることもしばしばありました。到着して間もない人々や宣教師を歓迎し、教会の評議会や集会に集って来る人々を

もてなし、霊的な雰囲気の中で祝福師の祝福が行えるように自分の家を安息の場所とし、親身になって助言を与え、教義について話し合い、毎晩賛美歌を歌い、祈りをささげて家族の礼拝を行いました。

福音が真実であることについてジョセフとルーシーの立てた証は会員たちを強めるとともに、教会を批判する人々に真っ向から挑むものとなっていました。ジョセフ・シニアの手形を買ったパルマイラのある住人は、直ちに支払いを要求し、モルモン書を燃やしてしまうのであれば支払いを免除すると言ってきました。ジョセフは病床の身でしたが、それを拒否して、むしろ支払い不履行に対する罰として数週間刑務所に入ることを選びました。

1830年6月に長老に聖任されたジョセフ・シニアはすぐさま自分の両親ときょうだいに福音を宣べ伝えました。激しく反対した者や、関心を示さなかった者もいましたが、兄弟のジョンとアサエル・ジュニアとシラスが改宗して、聖徒たちに加わったとき、ジョセフ・シニアは大喜びしました。大祝福師であったジョセフ・シニアは65歳のときに祝福を与える使命を帯びて合衆国東部の会員たちを訪れました。世を去るまでに、数百人の聖徒に祝福師の祝福を与え、励ましと靈感をもたらしたのでした。ジョセフ・シニアはカートランドにおいて教会の最初の高等評議会で働き、1834年にはハイラムとともに大管長補佐に聖任されました。カ

ートランド神殿が奉獻されたときに、この年老いた主の僕は驚くべき事柄を目にしています。

ルーシーもジョセフ・シニアに劣らず勇気のある人でした。ルーシーが以前に所属していた教会の役員がモルモン書を否定するよう強要したとき、彼女は公然と拒否して言いました。「たとえあなたがわたしの体中に薪を縛りつけて火をつけるとしても、神がわたしに息を与えておられる間は……その記録が……真実であると言いつづけます。」

別の折に、末日聖徒であると明らかにすることで迫害を受けると心配していた一部の長老たちに向かって、ルーシーはこのように言明しました。「わたしは自分が何者であるかを人々にはっきりと言います。」モルモン書は注目するほどのこともない書物であるとあざ笑った牧師に対して、ルーシーはこのように証を述べました。「牧師さん、はっきり申し上げますが、モルモン書には永遠の福音が記されています。あなたの救いのために聖霊の賜物と力によって書かれたのです。」ジョセフとハイラムが殺されて7か月後に、ルーシーは自分自身と亡くなった夫についてこのように語りました。「わたしたちの心には、この王国が転がり進むように力を尽くすこと以外に何の思いもありません。」

ジョセフ・シニアとルーシーはともに、当時の教会員が受けることのできた神殿の儀式をすべて受けました。ジョセフ・シニアが受けたこれらの儀式は、カートランド神殿で執行された準備の儀式でした。ルーシーは1845年12月10日にノーブー神殿においてイニシヤトリの儀式とエンダウメントを受けました。

### ルーシーとジョセフが残した教訓

今日のわたしたちはこれらの信仰篤い信者たちからどのような教訓を学ぶことができるでしょうか。第1に、彼らは親として、子どもたちに、福音に従い、心を合わせて熱心に働き、導きと祝福を求めて絶えず祈ることを教えました。彼らは言葉と行いが一致していました。

第2に、どこから見いだしたにかかわらず、その真理を大切にすることについて子どもたちに模範を示しました。親としてすべてのことを知っていなければならないと考えるのではなく、自分たちの子どもの一人から進んで、しかも喜んで学びました。

第3に、彼らは福音に献身することを最優先させました。たとえ、貧困、絶望、病氣、軽蔑を堪え忍ぶことを求め

られる状況に置かれるとしても、真理に忠誠を尽くす気持ちを翻そうとはしませんでした。

第4に、たとえ手もとにわずかな財産しかなくても、喜んで分かち合い、可能なかぎり聖徒と地域社会のために奉仕しました。

第5に、家族の一致に心を配りました。迫害によって散らされるときも、集合のために集まるときも、ジョセフとルーシーは、結婚した子どもたちをも引き連れて聖徒たちに従い、子どもたちの信仰を養い、病気のときに子どもたちを看護し、愛を込めて支え続けました。

第6に、最後まで堪え忍びました。悪感情を抱き、自分たちの信仰に疑問を抱いても不思議でないような試練や苦難を受けても、献身を続けました。ジョセフ・シニアは1840年、家族と聖徒たちに囲まれて、大祝福師としてこの世を去りました。1846年に聖徒たちがノーブーを離れたとき、70歳のルーシーは生存していた4人の子どもたちと義理の娘であるエマとともにノーブーに残りましたが、息子ジョセフの使命に対する信仰は決して揺らぐことはありませんでした。

最初に信じた人であったルーシーと夫のジョセフは、模範とすべき親の標準と、夫婦の間の献身的な愛、真理に対する献身について標準を示しました。彼らの模範は今日のすべての末日聖徒の家族にとって光となっています。□

ドナルド・L・エンダースはユタ州ケイスビルステーキ、ケイスビル第11ワードの会員であり、教会歴史美術博物館の史跡、家族と教会歴史部の先任学芸員を務めている。

脚注(英語)を希望する方はLiahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USAまでご請求ください。

ジョセフとルーシーは持ち物を快く分かち合う人でした。カートランド、ミズーリ、ノーブーで家中のベッドを来客に貸し与えて、1枚の毛布にくるまって床に寝ることもしばしばありました。



# 模範の力

カルロス・ペレス

絵/バット・ガーバー、写真/クレーグ・ダイヤモンド

**高**校を卒業してから、わたしは1年間エクアドル陸軍の兵役に就くことになりました。身の回りの品を荷造りするときに、モルモン書と『賛美歌』も入れました。そのときは、モルモン書が自分の人生にどれほど影響を及ぼすことになるのか、思ってもみませんでした。わたしは若者ばかりの104人の部隊に配属されましたが、彼らの行動を見て、末日聖徒は自分だけだな、と思いました。わたしは彼らの良い模範になりたかったので、あらゆる任務を全力で遂行するように努めました。

聖文を読む時間を見つけるのは、ほとんど至難の業でした。昼食の準備時間はわずか15分で、夜の自由時間も30分だけでした。しかし、わたしはその時間を使ってモルモン書を読むことにしました。

周囲の人々がわたしを観察しているとは気づきませんでした。すぐにわたしが教会員であることが分かったようです。最初はわたしをからかいましたが、その言葉にひるむことはありませんでした。そして、毎日、モルモン書から読んだ教えを実践するよう心がけました。

ある日、モルモン書を読んでいたとき、第三ニーファイ第12章16節に心を打たれました。「だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」わたしは彼らの良い模範となれるよう、天父に助けを請いました。やがて、わたしは部隊の仲間や、士官たちから人望を集めるようになりました。

陸軍での務めが万事うまくいくかに見えたある日のこと、友人は自分の自動小銃の装填用部品がなくなっていることに気づきました。わたしの国では、そういうたぐいのものを盗むことは国家反逆の重罪に当たり、刑務所に入れます。わたしたちは3日間という猶予を与えられ、部隊総出で紛失した部品を捜しました。盗んだのは自分ではないので、自分のトランクは調べませんでした。

あるプロテスタントの教会の会員である隊長が、全員のトランクを検査するように命じました。わたしのトランクが検査されたとき、部隊の兵士全員がそこにいました。検査の担当者がわたしのトランクから紛失した装填用部品を見つけたとき、わたしはあっけにとられてしまいました。一

体どうやって、それがわたしのところに入ったものか、皆目見当がつきませんでした。

わたしにとっては苦悶の瞬間でした。隊長がわたしを刑務所に入れる可能性があることを知っていたからです。兵士たちはわたしの身に何が起るのか、心配しながら、そこに立って見守っていました。隊長の言葉を待つ間、部屋中しんと静まり返っていました。

隊長はわたしを呼び寄せ、低い声で釈明を求めました。わたしに言えることは「身に覚えがありません」という言葉だけでした。彼はわたしを見詰めてこう言いました。「わたしはこれまでずっと君の行動を見てきた。だから君がやったのではないことを知っている。」すると、ほかの士官が隊長に「この兵士がやったのではないことをわたしも信じています」と言いました。残りの士官も全員、次々とわたしのところへやって来て、信用している、と言ってくれました。

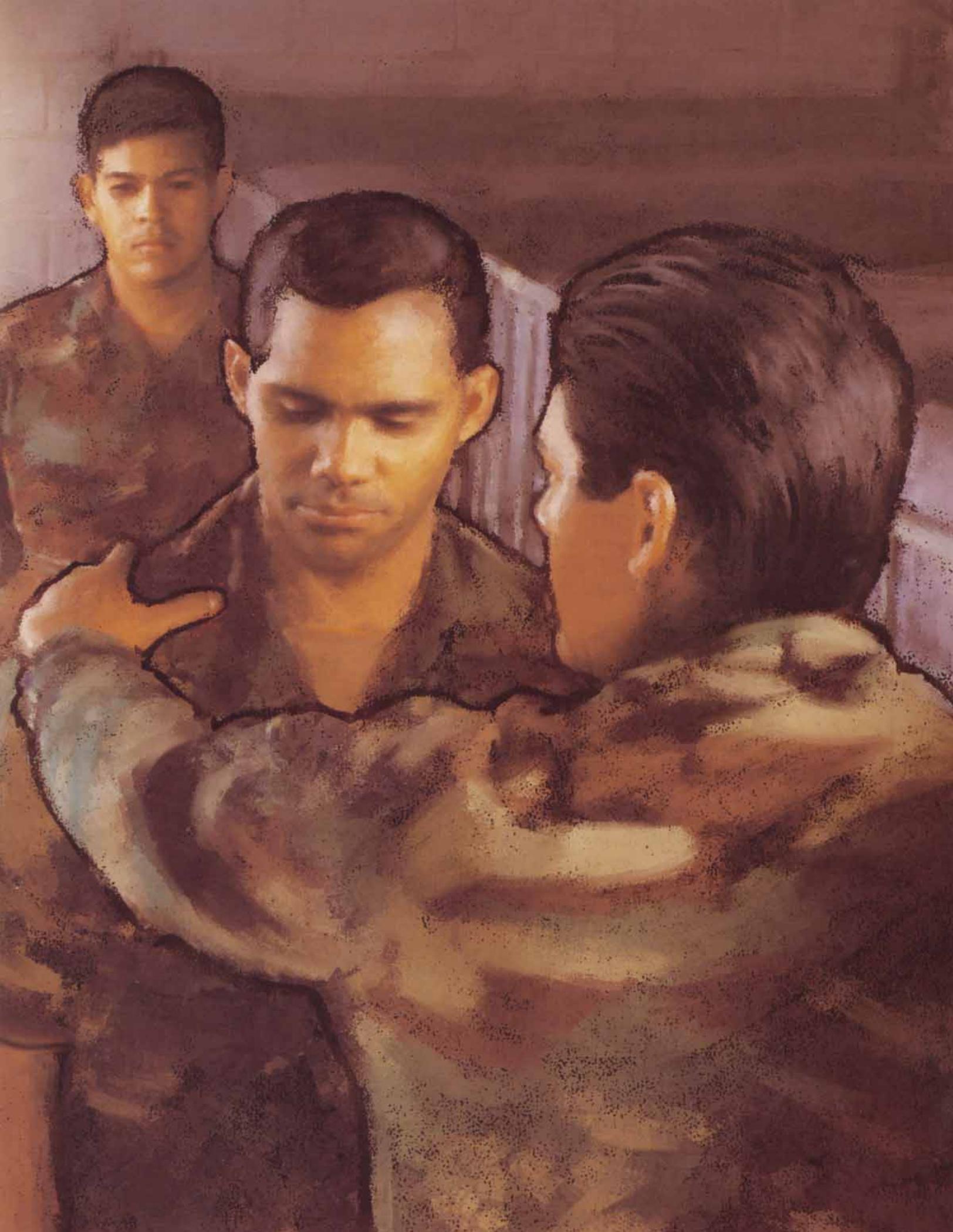
そのとき初めて、わたしは従順がもたらす祝福や模範の力をはっきりと悟りました。涙が頬を伝いました。そして、救い主が見守ってくださっていることを実感しました。救い主が味方になってくださったことを知りました。この経験を通して、かつて感銘を受けた第三ニーファイの聖句が、それ以後もずっと心に刻み込まれることとなりました。モルモン書がわたしに、世の光となり、模範となるよう教えてくれたことに感謝しています。

2、3日後、部隊の友人がわたしのところへ来て、二人の宣教師と出会ったこと、そして来週グアヤキルの町でバプテスマを受ける予定であることを話してくれました。彼がまことの教会に加わるのを見たとき、わたしはこの上ない幸せを感じました。

後に、わたしは主の兵士として、すなわち、エクアドル・キト伝道部の専任宣教師として福音を分かち合うため、伝道に出ました。わたしはイエス・キリストが生きておられ、わたしたちの完全な模範であられることを知っています。

□

カルロス・ペレス兄弟はエクアドル・グアヤキル・プロスペリナステーク、ガレゴスラワードの会員である。



# 『リアホナ』2001年2月号 の活用法

**聖餐会の話、クラスのレッスン、家庭の夕べのレッスン、あるいはセミナーのディボーションalで用いる物語や引用文をお探ですか。『リアホナ』の今月号の記事から助けとなるアイデアが見つかるかもしれません。(右側の数字は今月号のページ数です。「F」は「フレンド」の略です。)**

## 話し合いのためのアイデア——教義と聖約および教会歴史

■「イギリスの福音のルーツを探る」8ページ——マルバーンヒルズ、ジョン・ベンボアの農場、ガドフィールドエルムの礼拝堂は重要な史跡です。これらの場所で起こった出来事は初期の教会を強めるものでした。あなたの住む地域では、教会歴史上重要な意味を持つ場所にはどこがありますか。

■「イエス・キリストについての不可分の証の書」14ページ——どのように古代の聖文が現代の啓示を受ける道を備えたかについて話し合ってください。

■「最初に信じた忠実な人たち」38ページ——家族の中で、預言者ジョセフ・スミスの両親から学ぶ6つの教訓をどのように実践できますか。

■「これらのいましめを調べなさい」F16ページ——今年あなたの家族はどのようにして教義と聖約の「靈感あふれるすばらしいメッセージ」を楽しく学ぶことができますか。



## 今月号に採り上げられている項目

アロン神権	……2, チャーチニュース
イエス・キリスト	……14, F12, F14
祈り	……25
永遠の見地	……22
親としての務め	……38
改宗	……30
回復	……14, 38, F2
家族全員が教会員でない家族	……26
家庭訪問	……25
逆境	……22
教会歴史	……8, 38, 48
教義と聖約	……14, 48, F16
サンチェス, ルス・カリナ	……F4
慈愛	……30
従順	……25
障害	……F4
初等協会	……F10
信仰	……38
新約聖書ものがたり	……F12, F14
救いの計画	……36
スミス, ジョセフ・シニアと ルーシー・マック	……38
聖霊	……30
世界に広がる教会	……8
前世	……36
伝道活動	……26, 30, 36, F7
バプテスマ	……2
バプテスマのヨハネ	……2
奉仕	……30
ホームティーチング	……7
メルキゼデク神権	……チャーチニュース
模範	……46, F7
モルモン書	……14, 30, 46
預言者	……28, F10, F16

## 夫婦や家族についての話を募集しています

夫婦や家族のきずなを強められた経験やアイデアを教えてください。原稿や話を **Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA** またはEメールで **CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org** までお送りください。必ず氏名、住所、電話番号、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記してください。



「神の賜物と力によって」シモン・デューイー作

教会歴史美術博物館の厚意による。第5回国際美術コンテスト出品。

- 「わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアは、その書を、すなわちわたしが彼に命じた部分を翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である。」(教義と聖約17:5-6; 教義と聖約135:3も参照)



**預**言者ジョセフ・スミスは、オリバー・カウドリやその他の筆記者の協力を得て、モルモン書を「神の賜物と力によって」翻訳した(教義と聖約135:3)。この書物は、「聖文が真実であること、また神が実に人々に靈感を与えて、……この時期と時代にあっても神の聖なる業に人々を召しておられることを、世に証明している。」(教義と聖約20:11)教義と聖約はまさに、不可分の第2の証として、モルモン書と結び合わせられる書物である。「イエス・キリストについての不可分の証の書」14ページ参照。



特集

日本東京神殿

# 写真で見る 日本教会 100年史 特別篇



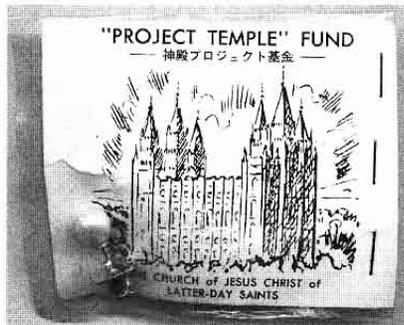
## 日本の神殿の夜明けから—— 神殿と日本人聖徒の40年

### 空前の資金調達プロジェクト

ドゥエイン・N・アンダーセン兄弟が伝道部長として働いた1962年から1965年は、日本が高度経済成長へと向かっている時期であった。そうしたとき、ハワイへの神殿団体訪問が計画された。このハワイ神殿訪問の費用は、夫婦で約450ドルが必要とされた。当時は1ドルが360円の時代であり、平均的なサラリーマンの5~6か月分の給料にも相当するものであった。伝道部ではその一部の資金を援助して負担を軽減するために、日本では例のない資金調達計画が行われた。それが、真珠プロジェクトとレコードプロジェクトと呼ばれたものである。真珠プロジェクトは、約4,000個の養殖真珠を手に入れ、それでタイピンを作り、会員が販売するというものであった。レコードプロジェクトで



1965年に催された第1回ハワイ神殿訪問ツアーの参加者たち。プリガム・ヤング大学ハワイ校の学生寮に宿泊するため、学生が夏休みに入った時期に行われた。



神殿訪問の資金を獲得するプロジェクトの一つとしてタイピンの販売が計画された。約4,000個の養殖真珠を購入して作られたタイピンは一個1,000円で販売された。

は、24人の人々が日本の歌や教会の賛美歌を歌い、『聖徒は歌う』というレコードを制作した。3,000枚のレコードが1枚700円~800円で販売された。このレコードに収められた合唱曲は、今日聴いてもレベルが高く、十分販売に値するものである。これらのプロジェクトの利益で神殿訪問ツアーの参加者たちは支援されることとなった。同時に、日本の教

会員の霊的な準備として『The Temple of the Most High』、『Endowment for the Faithful』や、そのほか神殿に関する資料からの抜粋が翻訳され、参加者の読書課題となった。また神殿の儀式を日本語に翻訳するために、事前に佐藤龍猪兄弟がハワイへ赴くこととなった。こうして、着実に準備されたハワイ神殿の訪問ツアーによって、最終的に132人の成人と29人の子どもがハワイ神殿に参入することができた。

### 神殿にあこがれて

神殿訪問ツアーに参加し、後に日本最初の祝福師となった渡部正雄兄弟は手記に次のように喜びを語っている。「……神殿だっ、とわき上がる歓声に窓外に目を向ければ10数年来写真に絵はがきに親しんできた懐かしい白亜の殿堂、主の宮が今現実にも目の前に荘厳な勇姿を現したのであります。世界で最も美しい所と言われるこの緑の園に立つ

その輝ける白衣の姿、思わず『勝ちを得る者は白い衣を与えらん』の聖句が浮かんで、じっと見詰めるのでした……。」ハワイ神殿に参入した兄弟姉妹が、いかに神殿に焦がれ、いかに多くの犠牲を払ってハワイの地を踏んだのかがしのばれる記述である。

初めてハワイの空港に到着したときの感激は、訪問ツアーに参加した人々にとって恐らく忘れられない思い出となっているに違いない。空港にはかつて日本人を導いたアンドラス元伝道部長が、歓迎委員として出迎えていた。ハワイの教会員たちは香り高いレイを作り、日本人の兄弟姉妹一人一人の首にかけて喜びと愛を表した。現在に比べればいまだ十分な経済成長を遂げていなかった日本にもかかわらず、日本人の教会員たちは、あこがれの神殿に数々の犠牲を払って訪問したのである。



1967年に行われた第2回ハワイ神殿訪問ツアーの参加者たち。後に日本の教会の指導者となる多くの兄弟姉妹が参加していた。

## 日本の教会を育てた神殿訪問

日本人の教会員たちは、当時は、チャーチカレッジと呼ばれていた教会の大学(現在のブリガム・ヤング大学ハワイ校)の学生寮に宿泊した。神殿参入者は二組に分かれて半日ごと交互に神殿で儀式を受けた。小さい子ども連れの家族もあり、両親が神殿に参入しているときには、ほかの会員が子どもを預かるようにして助け合っていた。初めて神殿に参入して儀式を受ける両親と同じように、ポリネシアン文化センターのショーや、畑での採れたてのパイナップルやマンゴーは子どもたちにとっても未知の経験であった。

伝道部長会や歓迎委員の発案により、日本の教会員は「家庭の夕べ」を体験するためにハワイの教会員の各家庭へ招待された。ハワイで家庭の夕べを体験した日本の聖徒たちは、日本に帰ってから家族を強め、日本にすべて

のプログラムがもたらされるべく献身するようになった。また、この神殿訪問が、日本人の指導者を訓練し、ステーク組織に備えて土台を作るために計画されたものであったため、伝道部の役員はできるだけ祝福師の祝福を受けられるように手配されていた。手続きを済ませてハワイ神殿で挙式した夫婦、臨月の中参加した姉妹、辞職を覚悟しながら参加した兄弟、だれもが困難の中旅費を工面して参加したにもかかわらず、喜びと感謝と希望に満たされた。多くの犠牲を払うことによって霊性が高められ、神の僕として一生懸命歩んでいく決心が育ったプロジェクトであった。

## 東京神殿への礎として

日本語での儀式ができるように、先にハワイ神殿へ向かった佐藤龍猪兄弟は、神殿の中で儀式の言葉を翻訳する作業に取りかかった。ハワイの日系2世の会員たちを中心に、儀式の言葉の暗記やライブセッションが行えるように

訓練も始められることとなった。日系2世の会員たちは1年間日本語の儀式の言葉を覚えるために、毎週火曜日夜6時から神殿で訓練を受けた。ライブセッションしか行われなかった当時、日本語セッションのために懸命にハワイで準備が進められた。これらの一致した奉仕は、後に東京に神殿ができる土台となった。日本からの訪問者のために日本語の儀式の準備をしていたアドニー・Y・小松夫妻、ポール・C・アンドラス、ヒデオ・金網夫妻、ウォルター・照屋夫妻、サム・K・鳥袋夫妻、ユージン・大島、フランク・鈴木夫妻などの多くは、東京神殿が建設されたときに、神殿長や神殿宣教師、儀式奉仕者としても活躍した。またこれらの人々は、1970年10月の総大会に日本の教会員360人が出席したときにも、ハワイからソルトトレイク神殿へ赴き、日本人のための儀式執行者として奉仕活動に従事した。

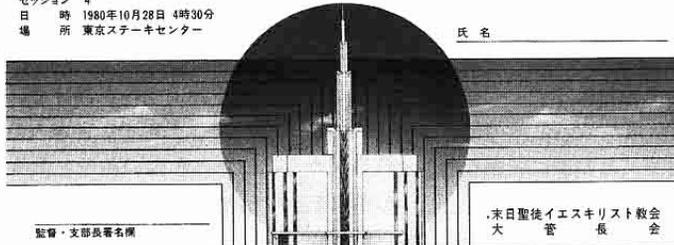
## そして着工へ

1978年4月5日に神殿建設着工のため、東京伝道本部は一時管理本

## № 000863 東京神殿献堂式

セッション 4  
日 時 1980年10月28日 4時30分  
場 所 東京ステーションセンター

氏 名



監督・支部長者名簿

末日聖徒イエスキリスト教会  
大 管 長 会

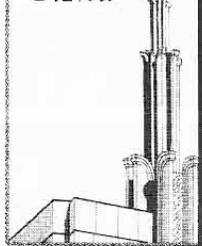
吉野寺のステークセンターで6回のセッションが行われた奉献式の記念推薦状。当時は「奉献式」ではなく「献堂式」と呼ばれていた。裏面の案内には「姉妹達はスラックスやミニスカートは許されていません。兄弟達はスーツかブレザーコートにネクタイを着用してください」「新しい白いハンカチをひとり一枚儀式のために備える」「12才以下の子供及び幼児は参列できません。12才以上、16才以下の会員は成人会員と一緒になければなりません。」(原文)などが奉献式の参加者への注意事項として記されている。

部事務所内へと移った。そして既存の伝道本部が取り壊され、東京神殿の建築が開始された。神殿を建設するには伝道本部の土地だけでは狭かったため、隣接した土地も購入されることとなった。そこにはプレハブの大部屋が建てられ、遠方から神殿に参入する人たちや伝道地へ赴任する前に訓練を受けている宣教師の宿泊所として利用された。やがて、プレハブは取り壊され、現在の神殿別館が建設された。

### 神殿の稼働に向けて

1980年の東京神殿の完成に先立って、アメリカから総監督としてサダオ・長田夫妻が来日して働いた。アンダーセン神殿長を補佐するために、ユタ州在住のユークス・井上兄弟と松下泰洋兄弟が副神殿長に召され、松下兄弟は神殿レコーダーも兼務することになった。神殿で奉仕するように召されていた宣教師たちも8月下旬には次々と東京に移り始め、仙台から塩隆義夫妻、川越から柳田藤吉夫妻、東京の奈良富士也夫妻、丹羽三吾夫妻、横浜の渡部正雄夫妻、福岡から重岡利夫夫妻、ユタからユークス・井上夫妻、真野姉妹と野田姉妹、

### 東京神殿 ご招待券

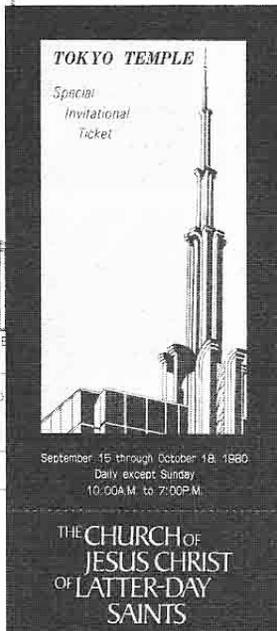


日：昭和55年9月10日～10月18日（日曜を除く）  
時：午前10時～午後7時

お連れ入りますか、住所、氏名をご記入の  
お返書下さい。

氏名

住所



東京神殿の一般向けオープンハウスの招待状。日本語と英語の2種類が用意された。

日本語の招待券の裏面にのみ「6才以下のお子さまは入場できません」（原文）と書かれている。

ハワイからフランク・鈴木夫妻、ヒデオ・金網夫妻の10組が集まった。彼らのほとんどは60歳を越えており、丹羽兄弟は80歳、奈良兄弟は82歳、後に青山の自宅から奉仕に通って神殿宣教師として働いた佐藤龍猪兄弟は81歳であった。

塩兄弟、奈良姉妹、丹羽姉妹も70歳を超えており、それでも新しい勉強に毎日朝から午後5時まで熱心に取り組んだ。老齢にもかかわらず、日本に神殿ができた喜びに満たされて、一生懸命に儀式の言葉を覚え、神殿での奉仕に備えていた。

### オープンハウス、奉献式

9月13日には各界の著名人を来賓としたオープンハウス（一般公開）が行われ、それに先立って、スパンサー・W・キンボール大管長と大管長会のN・エルドン・タナー副管長、マリオン・G・ロムニー副管長の名前で約1,000通の招待状が発送された。松下電器産業の松下

幸之助氏、日本テレビの小林与三治社長、立正佼成会の庭野日敬会長をはじめ、政財界、宗教界、教育界などの各界の名士が東洋初の神殿を訪れた。アジアで最初の神殿が建設されたことはメディアの関心を呼び、テレビニュースや新聞でも採り上げられ、『週間読売』ではソルトレークの本部の特別な許可を受け、神殿内部の写真を掲載するに至った。9月15日からの神殿のオープンハウスでは1か月間に延べ15万人が神殿内の見学に訪れることとなった。

10月27日には、来日したキンボール大管長をはじめとする夫人同伴の中央幹部、各ステーク会長、伝道部長、神殿宣教師が出席する中、東京神殿の定礎式が行われた。1階のホールにはさすが所狭しと並べられ、半年間練習を重ねてきた神殿聖歌隊はホールわきのコート掛けのある部屋に控えることとなった。引き続き4階の日の栄えの部屋で奉献式が行われた。

さらに、北海道から沖縄までの全国から集まった教会員のために、吉祥寺の東京ステークセンターでは10月28日、29日の2日間にわたって、午前9時30分、午後1時30分、午後4時30分の計6回の奉献式が行われた。

10月30日から11月1日までは、東京神殿で、全国から来た日本人宣教師の

●建築業者からの引き渡しが行われる前に、柳田聡子姉妹を中心として東京近郊の各ステークの姉妹たちが神殿を清掃するよう依頼された。数日間、午前午後の割り当ての、すべてのローテーションを均等に調整する作業を心配していた柳田姉妹は、それぞれの希望を出してもらっただけで、ばらつく

ことなく平均的に人数が調整されたのを見てとても不思議な気持ち



柳田 聡子

1980年6月15日、東京神殿内の清掃のために、ご参り下さりありがとうございます。

末日聖徒イエス・キリスト教会  
東京別館・総配長

柳田 聡子

各ステークの宣教師やボランティア、ご参り下さりありがとうございます。

神殿の清掃に携わった姉妹たち全員に贈られる予定だった感謝状。結局使われることはなく、「幻の感謝状」となった。

を感じたという。清掃前夜、アメリカから来日した神殿開設準備の担当者は、「アメリカでもヨーロッパでも伝統的に、業者からの引き渡しの前にこのような清掃を行ってきた」と説明するが、日本側の業者は「日本ではすべて美しくしてから引き渡しているのだから必要ない」と意見が分かれた。柳田姉妹の提案により、関係者が神殿の各部屋を回って視察することとなり、アメリカの担当者は「清掃の必要がない」と結論を出した。しかし、翌朝から奉仕に出かけて来る姉妹たちに中止の連絡をするために、各ステークの会長が分担して電話をかけることとなった。清掃に参加した姉妹たちに感謝を示し、また記念の意味で用意した神殿長のサインが入った「感謝状」は結局使われることがなかった。主は人の「心の望み」を御覧になっている。それぞれの姉妹たちが犠牲を払う決心をただけで十分だったのだと柳田姉妹は感じたという。

ために初めてエンダウメントが行われた。これは、神殿宣教師たちにとっても初めて儀式を施す経験であった。そして、11月4日から一般の会員のための儀式が開始され、多くの日本人にさらなる祝福がもたらされることとなった。

キンボール大管長は東京神殿の奉獻の祈りの中で次のように述べている。

「この神殿に来たる者すべてが謙虚な心を持ち、清く汚れなき状態で参入できるようになしたまえ。我らはこれらの聖徒の献身と信仰、また清くあらんとの決意と努力の故に汝に感謝し奉る。」

ハワイ神殿に参入し東京神殿の礎を築いた日本の開拓者たち、神殿の建設に携わった兄弟姉妹たち。彼らの犠牲があったからこそ、20年という時を経て色あせることのない信仰の土台



●東京神殿の歴代神殿長。上段左から任命順にドゥエイン・N・アンダーセン神殿長夫妻、アドニー・Y・小松神殿長、サム・K・島袋神殿長夫妻、ラッセル・N・堀内神殿長夫妻。下段左からトモスエ・アボ神殿長夫妻、ウォルター・S・照屋神殿長夫妻、菊地良彦神殿長夫妻、長嶺顕正神殿長夫妻。

が継承されている。今日も、さらに多くの教会員が、犠牲を払い自らをささげることによって、かつての開拓者たちが得

た喜びと感謝の気持ちを感じ続けることができる。この20年の節目が新たな時代の幕開けとならんことを。□

東京神殿は、奉獻から20年、参入する聖徒たちの喜びとともにその歩みを着実に続けてきました。

年に4回のオールナイト・エンダウメントセッションもすっかり定着しました。さらに2001年は節目の年として、特別礼拝週間(神殿内の礼拝堂で教会指導者の話を聞いた後、エンダウメントの儀式を受ける。昨年まではクリスマスに行われていた)がイースター週間(4月)、日本奉獻100周年記念週間(9月)、クリスマス週間(12月)、と3回設けられています。

「神殿はいつも皆さんを招いています」と笑顔で語る坂井 圭東京神殿長にお話を伺いました。

神殿について理解するには、初等協会の資料がわかりやすいと思います。そこには、神殿で受けるものが4つ書かれています。

1. 天父のみもとへ帰る方法を学ぶ。
2. 啓示を受ける。
3. 幸福、平安、敬虔さを得る方法を学ぶ。
4. 死者の身代わりとなって奉仕する喜びを受ける。

ボイド・K・バックャー長老は、「神殿で何を求めるかは、謙遜、敬虔、学ぼうとする気持ちなどの形で、わたしたちが神殿に携えていくものに大きく左右される。もしわたしたちが素直であれば、神殿の中でみたまによる教えを受けるであろう」とおっしゃっています。神殿に参入して、多くのものを求めれば、きっと多くのものが与えられるにちがいないのです。

神殿は、天からの力をいただくところです。肉体の力をつける場合を考えてみても、力は、繰り返し繰り返し、しかも継続してトレーニングをしなければ身につかないことがわかります。それと同じように、霊の力も、繰り返し繰り返し、何度も何度も儀式を受け、さらにそれを定期的に継続して行わなければ、強めることはできません。

「この神権の儀式によって神性の力が現れる。また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」(教義と聖約84:20-21)

神殿の儀式を通して皆さんが霊の力を強化され、ますます強くなって悪の力に備えられますようにと願っています。

新しい世紀は「情報」の時代とも言われています。そして、聖徒たちにとって何よりも重要な情報は、天からの情報だと思えます。主の再臨が近づけば近づくほど、悪の軍勢もますますその力を強めてくることでしょう。そんな時代の中で、わたしたちが天のふるさとへ帰る道を迷わないように進むためには、天からの導きが重要になってきます。神殿はそんな個人個人の啓示を受けられるところです。

また、すでにご自分の儀式を終えられた方は、儀式を待っている多くの死者たちのために奉仕することができます。わたしたちは、肉体を持つ者の助けを待っている多くの死者たちのために、身代わりとなって働くことができます。それはちょうど、主がわたしたちを背負って、天父のみもとへ運んでくださるのに似ていると思います。わたしたちもまた、死者たちを背負って、彼らを神の国へと運んであげることができます。

「ヤコブの家よ、イスラエルの家の残ったすべての者よ、生れ出た時から、わたしに負われ、胎を出た時から、わたしに持ち運ばれた者よ、わたしに開け。わたしは……あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」(イザヤ46:3, 4)

人を背負って歩いていると、次第にその人の温もりを感じてきます。また、背負った方から教えられ、助けられもします。そして、何よりもその方との絆を強めることができ、いつかその方にめぐり会えたときには、言い尽くせない喜びに包まれることと思えます。そんな奉仕の喜びを、ぜひ神殿でお受けになってください。みなさんの参入を心からお待ちしています。(談)

# 専任宣教師

2000年12月(255期生)7人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



おおたはら まみ  
大田原真美  
広島伝道部  
札幌ステーキ  
厚別ワード



かじの ゆかり  
梶野由香理  
福岡伝道部  
札幌ステーキ  
厚別ワード



つださおり  
津田沙織  
広島伝道部  
名古屋西ステーキ  
大山ワード



ながつなのぶこ  
長綱信子  
仙台伝道部  
奈良地方部  
名張支部



はまだ ゆうき  
浜田祐希  
福岡伝道部  
大阪ステーキ  
大阪ワード



はら けんじ  
腹子 馨  
仙台伝道部  
盛岡地方部  
富古支部



もりしたかし  
森下高志  
福岡伝道部  
横浜ステーキ  
横浜中ワード

\*

## 役員の変動

2000年12月12日から2001年1月10日まで  
に管理本部会員統計記録課に通知の  
あった役員の変動(敬称略)

- 札幌西ステーキ藻岩ワード  
監督: 桑原 正敏
- 金沢ステーキ福井支部  
支部長: 山田 晃久
- 松山地方部新居浜支部  
支部長: 佐々 日出雄

### 皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニ  
ュースなど、全国の読者に紹介したい  
有意義な情報をお寄せください。

◎お願い——海外に召される日本人宣  
教師を紹介いたします。氏名(フリガナ)、  
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、  
MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、  
編集室に写真を添えてお知らせください。  
デジタルカメラでお撮りになった画像デ  
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入  
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

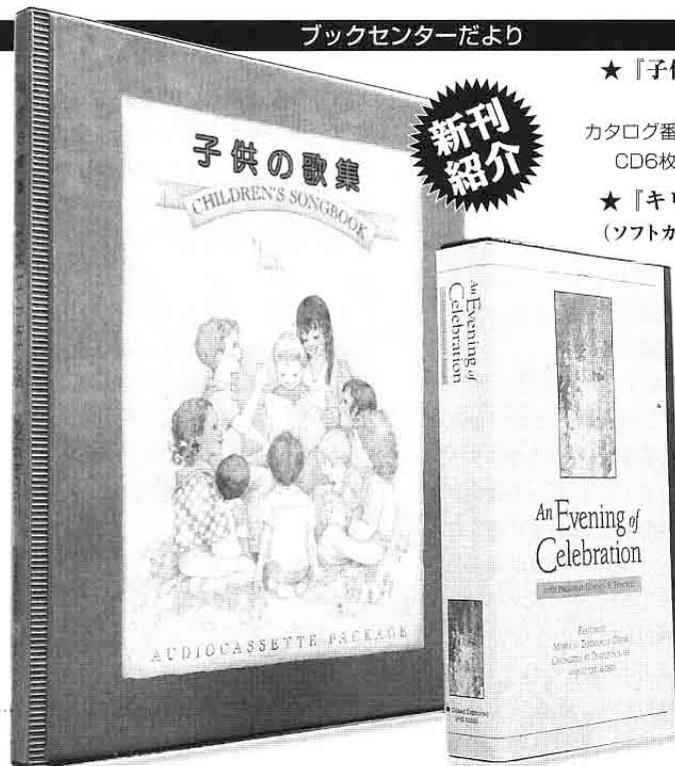
◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻  
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト  
教会『リアホナ』編集室  
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275  
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

\*リアホナ専用電子メールアドレスあてに、  
時折ハイパーテキスト(HTML形式)でメールを送  
られる方がいらっしゃいますが、文字化けの原  
因となります。当方では原則としてテキスト形式  
で送信しておりますので、送信時の設定はで  
きるだけテキスト形式でお送りくださいますよう  
ご協力をお願いいたします。(編集室)

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、  
その他商品に関するお問い合わせは——  
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

ブックセンターだより



新刊  
紹介

★『子供の歌集』CDも  
好評発売中!

カタログ番号: 50177 300  
CD6枚組 定価1,200円

★『キリスト・イエス』  
(ソフトカバー)の価格改訂

(カタログ番号:  
80352 300)

旧価格1,500円  
が、700円と  
なり、いっそう  
お求めやす  
くなりました。

『子供の歌集』オーディオカセット(新刊)

カタログ番号: 52538 300 カセットテープ8巻組 定価1,200円

既刊の『子供の歌集』に収められた全119曲を日本語で歌うカセット。初等協会  
の子どもたちの無邪気で愛らしい歌声をお楽しみください。1曲につき歌入りと  
伴奏のみの2通りで収録されており、初等協会や家庭にて様々な活用できます。

『祝賀会の夕べ』(An Evening of Celebration)ビデオ(英語)

カタログ番号: 53335 VHS 125分 定価 800円

ヒンクレー大管長90歳の誕生祝賀会の模様を収めたビデオ。大管長は  
この会を、わたしのためではなく地域社会への贈り物である、と語りました。  
オペラ、賛美歌、フォークソング、現代音楽など、ヒンクレー大管長の  
好きな曲目が次々に演奏されます。モルモン・パナクル合唱団、テン  
ブルスクウェアオーケストラをはじめ、マイケル・パラム、グラディス・ナイ  
トなど末日聖徒の当代一級の音楽家たちが、壮大なカンファレンスセン  
ターのホールをバックに歌う豪華な音楽プログラムです(『リアホナ』2000  
年11月号チャーチ・ニュース、1参照)。